

(6) ヴィエトナム台風災害

派遣の経緯及び概要

87年11月18日から19日にかけて、台風6号がヴェトナム中部のギア・ビン省、フー・カイン省を中心とする地方に襲来し、死者101人、負傷者211人、総被災者935千人、倒壊・損壊家屋数5.6万戸（12月29日現在）の被害を出し、ヴェトナム政府は我が国を含む各国政府、国際機関等に対し援助要請を行った。これを受けて、JICAは台風による被災状況の把握、医療ニーズの調査、医薬品の供与等を目的とした救急医療チームを派遣することを決定した。

1	派遣国	ヴェトナム
2	災害区分	台風による洪水、家屋倒壊
3	災害発生時期	11月18日～19日
4	災害の規模	死者 110人、死傷者 211名、被災者 935千名 倒壊・損壊家屋数 5.6万戸、水田冠水面積 2.1万ha
5	派遣区分	JMTDR
6	派遣の目的	①医薬品供与 ②被災状況の調査 ③相手国のニーズ把握
7	派遣期間	1月20日～26日
8	チームの構成	調整員1名
9	受入機関	保健省
10	活動の場所	ホーチミン市
11	活動の内容	医薬品の供与、被災状況及び援助要請調査
12	携行機材	医薬品（抗生物質等）

日程、メンバー

派遣期間：1988年1月20日～1月26日

メンバー：

氏名	所属先	担当業務
高杉 重光	JICA筑波インターナショナルセンター 研修課長	業務調整

派遣日程

日	程
1月20日（水）	成田発 バンコク宿泊 JL- 717便
21日（木）	バンコク発 ホーチミンシティに着 AF- 134便 日本大使館訪問
22日（金）	援助受入委員会訪問、本災害について会議 チャーライ病院視察
23日（土）	入国管理事務所中央郵便局訪問
24日（日）	
25日（月）	援助受入委員会へ供与物資引渡し ホーチミンシティ発 バンコク宿泊 AF- 175便
26日（火）	成田着 TG- 642便

携行機材

医薬品等 ①衛生状態の極度の悪化、栄養不良により、蔓延が強く懸念されている
赤痢等感染症に対する抗生物質、解熱剤、栄養剤等の基礎薬品

②供与品目	アンピシリン	(抗生物質)
	クロラムフェニコール	(抗生物質)
	ペニシリン	(抗生物質)
	バクタ	(抗生物質)
	ビタミン剤	(栄養剤)
	パラセタモール	(解熱、鎮痛剤)

被害状況

(1) 人的被害	(イ) 死亡者数	101人
	(ロ) 負傷者数	211人
	(ハ) 家を失ったもの	35.2万人
	(ニ) 総災者数	93.5万人
(2) 物的被害	(イ) 倒壊・損壊家屋数	5.6万戸
	(ロ) 学校の倒壊・損壊数	494棟
	(ハ) 堤防の倒壊・損壊	35万 ² m
	(ニ) 道路の損壊	162万 ² m
	(ホ) 橋梁・水門の損壊	149カ所
	(ヘ) 家畜被害	5600頭
	(ト) 水田冠水面積	2.1万ha
	(チ) その他作物畑被害面積	1.7万ha
	(リ) 流出作物量	6.6万トン
(3) 被害総額		54百万ドル

医薬品引渡しに係る出張報告

高杉 重光

出張地 ホーチミン市 (ベトナム)

期間 昭和63年1月20日から1月26日まで

経過

1. 1月20日(水) JL717便にて成田発、バンコク泊、翌1月21日(木) AF134便にてホーチミン市着、空港にて在ハノイ日本大使館日田二等書記官、ペリーナム外務委員会のリュックプロトコール長の出迎えを受け、エクスで運んだ11箱の医薬品の無事到着を確認した。その後旧日本大使館を訪問し日田氏との日程の打合せを行った。なお、20日のジャパントイムズ紙に日本政府がベトナムに医薬品等の供与の協力をした旨の記事があった。
2. 22日(金) 10時に、援助受入委員会へ日田書記官と行き、次長のグエン女史他2名、それに外務委員会のリュックプロトコール長を相手に本件について約2時間会議した。午後医療協力現状理解のため、チョーライ病院を視察した。院長より、説明、副院長より、施設設備の案内を受け、医薬品の不足、施設、設備の老朽、破損を認めた。
3. 23日(土) 午前、輸入品の通関、郵便事情を知るために、入国管理事務所、中央郵便局へ行く。普通通関に2週間、郵便は国内でも1週間要するとのこと、ハノイへの電話も約1時間要するとのことである。午後、援助受入委員会へ再度行き前日会議での確認補足を行った。なお本日は日田書記官と別行動をとった。
4. 24日(日) 休
5. 25日(月)、9時半より援助受入委員会にて医薬品の検収を2名の税関職員の見合いで行われた。その結果、医薬品の数量はパッキングリストどおりであったがケースNo. 10のVペニシリンのメーカーが2種であることを認めた。これについて先方では別に問題にしていなかった。その後、引渡しを行い、受領書を受領した。
6. 午後外務省プロトコール長の見送りを受け、予定通り、ホーチミン市を離れ、翌26日(火) 帰国した。

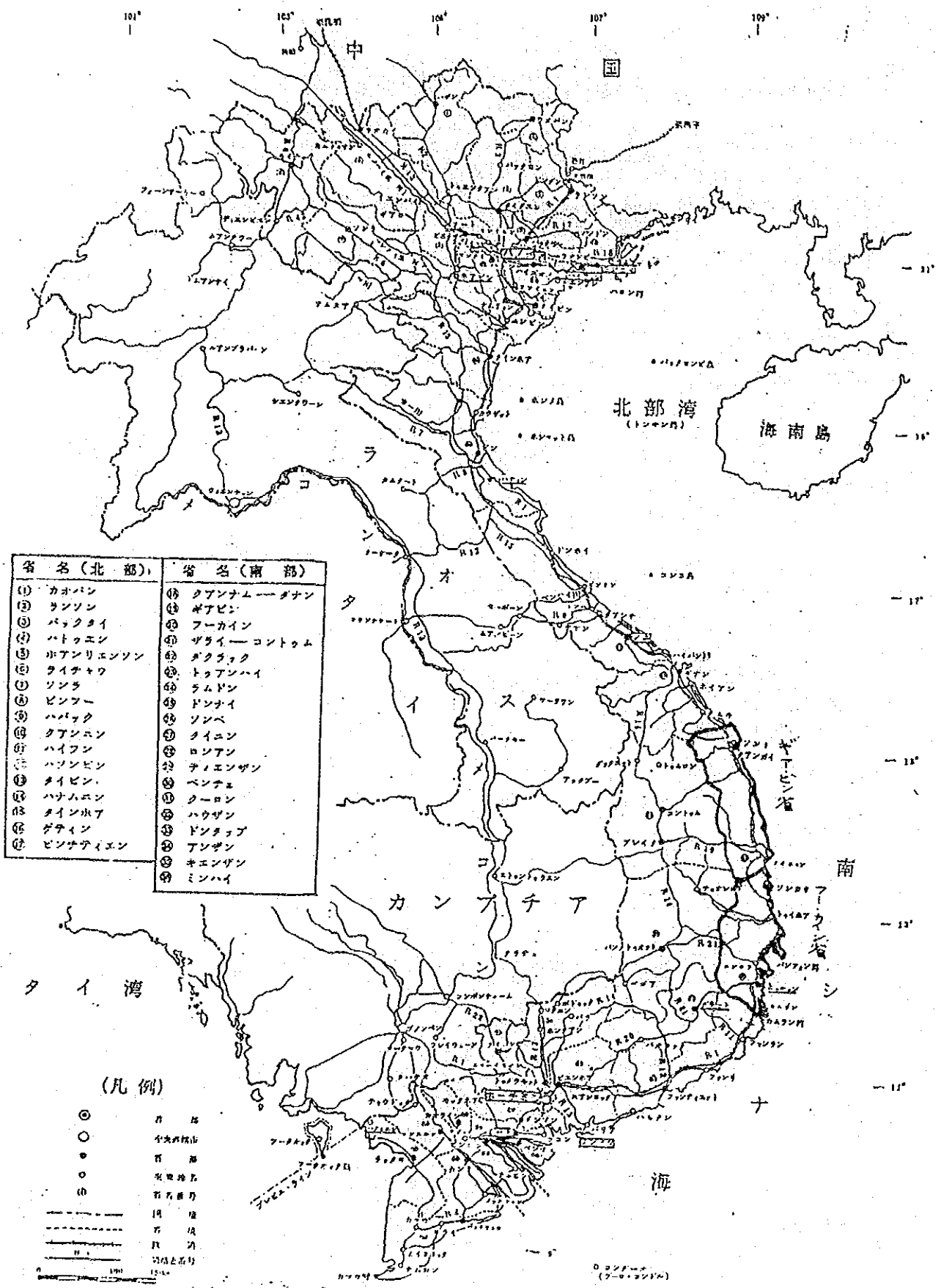
結 果

1. 医薬品を無事に引渡し、受領書を受領した。立合った先方の職員は大変感謝していた。
2. 援助受入委員会は当方に対し、よく協力したが、医薬品の使途、被害状況については十分に知っておらず、結局、中央台風・洪水対策指揮委員会に連絡し、後日そこより、在ハノイ日本大使館に正式に回答することになった。すなわち、医薬品の使途計画、被害の状況を示す写真については後日、回答がある。なお、医薬品は1週間以内に現地の人々の手に渡るとのことである。
3. 今後の医療協力については、医薬品の供与、病院施設の修理、医療機器の供与が強く要望されている。

以 上

ベトナム

(別添1)



省名(北部)	省名(南部)
① カオバン	⑭ クアンナム—ダナン
② ランソン	⑮ ボアビン
③ バックタイ	⑯ フーカイン
④ ハトウエン	⑰ ザライ—コントゥム
⑤ ホアンリエンソン	⑱ タクチャク
⑥ タイチャウ	⑳ トゥアンハイ
⑦ ソンラ	㉑ ラムドン
⑧ ビンフー	㉒ ドンナイ
⑨ ハパック	㉓ ソンベ
⑩ クアンブイン	㉔ タイニン
⑪ ハイフン	㉕ ロンアン
⑫ ハンズン	㉖ ティエンザン
⑬ タイビン	㉗ ベンチュエ
⑬ ハナムエン	㉘ クーロン
⑬ タインホア	㉙ ハウザン
⑬ グタイン	㉚ ドンチャブ
⑬ ビンサタイエン	㉛ アンザン
	㉜ キエンザン
	㉝ ミンハイ

(凡例)

- ◎ 首都
- 主要都市
- 市部
- 重要都市
- 市部
- 町部
- 村部
- 町部
- 村部
- 町部
- 村部

(7) ヴァヌアツ諸島サイクロン災害

派遣の経緯及び概要

1月10日～11日にかけて、サイクロン「アン」はヴァヌアツ北部（バンクス諸島、トレス諸島、及びサント島西北部）を襲い、被災者数は約5,000人以上にのぼり、うち1,600人は家屋喪失し、食料、飲料水及び医薬品の不足が深刻となった。

この災害に対し、2月5日ヴァヌアツ政府より在フィジー日本大使館を通じ日本政府に対し、水タンク、飲料水供給用資機材、発電機、テント、医薬品の要請があった。

1	派遣国	ヴァヌアツ
2	災害区分	サイクロンによる家屋倒壊
3	災害発生時期	1月10日～11日
4	災害の規模	被災者 1,000名
5	派遣区分	JMTDR
6	派遣の目的	①発電機、医薬品の供与 ②被災状況の調査 ③援助要請の調査
7	派遣期間	2月13日～2月20日
8	チームの構成	調整員2名
9	受入機関	ヴァヌアツ国災害対策本部
10	活動の場所	ポート・ビラ市
11	活動の内容	発電機、医薬品の供与、被災状況及び援助要請調査
12	携行機材	発電機、医薬品等

日程、メンバー

派遣期間：1988年2月13日～2月20日

メンバー：

氏名	所属先	担当業務
カツマタ ハルミ	在フィジー日本大使館	緊急援助
西川 昭司	JICA医療協力部医療協力課	業務調整

派遣日程

日	程
2月13日(土)	成田発(20:00) JAL-771便
14日(日)	ポートヴィラ着
19日(金)	ポートヴィラ発(20:45) FJ-714便
20日(土)	成田着

携行機材

発電機(7.5kv) 1台
ジャックハンマー(万能作業機) 4台
テント 7張
簡易水槽 10個
医薬品 (抗生物質他)

(計) 約920万円相当

被害状況

被害のあった各地では、ほとんどの家屋が程度の差こそあれ、損壊、ココナッツを中心とする農作物には全滅に近い被害があり、また通信施設、空港施設も倒壊し、通信、運輸手段を絶たれた。被災者数は、約5,000人以上にのぼりうち1,600名は家屋を完全に喪失した。家屋喪失者の多くは洞窟での生活を余儀なくされ、食料、飲料水の深刻な不足に直面した。特に被災地は、自給自足経済を営んでいる人々が多いため、農作物への被害は特に深刻であり、今次被害により約6カ月分の食料を失ったといわれている。

読売新聞 (2月14日付)



●バヌアツへ職員派遣
国際協力事業団は、南太平洋

洋にあるバヌアツ共和国の北部諸島で先月十二日発生した台風による広範囲の被害に対し、緊急援助することにし、十三日、職員二人を成田から現地に派遣した。
現地調査のため、発電機二台、テント七張り、抗生物質など計九百二十万円相当の援助を行う。

Vanuatu weekly (2月20日付)

Japan Gayman i helpem olgeta aelan we "Anne" i kilim olgeta



Ms Katsumata i han-ova olgeta saplae long Mista La'au. Mista Stafford wetem Mista Nishikawa tufala i stanap long saed.

Afta long olgeta damej we Saeolon "Anne" i bin kosem long sam aelan long Noten Distrik, hemia long Banks mo Torres Grup mo long West Kost Santo, Gayman blong Japan heml bin tekem wan kwiik aksen blong sendem wan emergensi rilif tim wetem sam emergensi rilif saplae i kam long Vanuatu.

Ofisiol presentesen blong olgeta saplae ia olsem aid blong Gayman blong Japon i bin tekem ples long Ministri blong Hom Afeas mo long taem ia, Namba-tri Sekreteri insaed long Embasi blong Japan long Suva, Fiji, Ms Harumi Katsumata, hem nao i bin han-ova o' samting ia long Namba-tu Sekreteri blong Ministri blong Hom Afeas, Mista

Josephat La'au.

Ol saplae ia, i gat ol medisn, ol wota tank, olgeta hama, wan elektrik genereta mo sam tent. Everi samting ia kost blong olgeta i kasem 9.2 million yen (US\$70,000) kolosap 7,176,400 Yatu.

Konsalten blong Nasonal Disasta Kordineting Komiti (NDCC) mo Nasonal Disasta Manejmen Ofis (NDMO), Mista Max Stafford i talem se olgeta saplae ia bae oli givimaet long ol aelan blong Banks mo Torres mo long West Kost Santo we "Anne" i spoeken gud olgeta.

Ms Katsumata i mekem visit ia i kam long kaontri wetem Staf Ofisa blong Medikal Koperesen Dipatmen blong Japan Intenasonal Koperesen Agensi (JICA) long Japan, Mista Shoji Nishikawa.

昭和63年 2月22日 (月)

医療協力部付

西川 昭司

ヴァヌアツ国サイクロン災害 緊急援助に係る業務報告

1. ヴァヌアツ共和国の概要

- 1 オーストラリア大陸のシドニー北東約2,250 kmの南緯13°~23°の間約750 kmに連なる島嶼国家で、80の島々からなり、その内70の島に住民あり。
- 2 人口 12.8万人 (1984年)
 - 原住民 (メラネシア系) 93%
 - 中国・ヴェトナム系 3%
 - 英仏人 2%
 - 他 2%
- 3 人口の80%は自給自足経済を営む
 - 主な収入 コプラの輸出
 - 漁業の輸出 (マグロ、カツオの冷凍)
 - 観光
 - 牧畜の輸出 (牛肉の加工品)
- 4 定期空路 (首都ポートヴィラよりの)
 - サント島へ 午前午後の毎日2回 約250 km
 - トレス群島へ 週1回 約450 km
 - バンクス群島へ 週2回 約350 km船の定期便はない
- 5 昨年、1987年2月「サイクロン・ウマ」が首都ポートヴィラのあるEFATE島を襲う。EFATEにとっては30年ぶりの大型サイクロンと言われる。

2. サイクロン "Anne" について (「ヴァ」国資料より)

- 1 1988年1月10日の夜から11日の朝にかけて北部諸島を襲った。
- 2 風速160 km/hから瞬間風速225 km/h (62 m/sec)
気圧930ヘクト・パスカル
- 3 北部諸島の住民約6,400人の内、640世帯の3,200人が被害を受けた。死者はない模様。

- 4 被害について
家屋、畑、換金作物（コブラなど）
風と洪水による生活用水が被害
その他公共施設
- 5 豪州 被害調査用ヘリコプターを輸送機で運ぶ
英国 被害調査等のチャーター機のための費用を提供
ニューゼaland 空軍のAudover 輸送機を提供
「ヴァ」国政府 上記の輸送手段で ①緊急食料
②災害対策用の工具類
③tarpanlin（タールを塗った麻布）
- 6 被災住民への食料の補給は、あと4～5ヵ月は必要
- 7 観光業には全く支障は無い旨を強調

3. 第二陣の必要性について

- 1 供与済ジャックハンマー（砕岩機）×4台の付属品について
別添：書簡及び付属品リスト
本件は、国家災害管理事務所の豪州人アドバイザーMr. M. Scaffond が、
空港までかけつけて西川職員に持参した書簡と希望品のリストについてである。
「ヴァ」国外務省を通していたのでは時間がかかるのでJICAを通じて
直接日本国政府に要請して欲しいとのことであった。
- 2 上記以外の緊急援助の要請は出ない模様。
- 3 2月17日午後4時内務大臣と会見の際、勝又書記官に復興援助、とくに学
校等の公共施設用の建設資材を日本はじめ有志諸国にお願いしたいとの主旨
の発言があった。緊急援助とはカデコリーが違うが、一応ご報告申し上げる。

4. 相手国の対応について

- 1 2月14日（日）外務省担当官出迎え
「ヴァ」国外務省職員は事務次官以下計6名の陣容で全世界をカバーしている。
他に2名の政務次官がいる。
- 2 2月15日（月）トラックと人員の手配
- 3 2月16日（火）空港の倉庫より内務省の前庭まで Vanuatu Mobil Force
（国家警察機動隊）の10名とトヨタの4トトラックで携行救援物資を
搬送。10:30 時内務省次官兼国家災害調整委員会の Chairman に正式に引渡
す。

- 4 この際、内務省情報局の報道官 Miss Sherly Nasse, 記者兼カメラウーマンが取材活動。これはラジオ・ヴァヌアツの放送用とヴァヌアツ・ウィークリー（週1回発刊、これ以外の新聞はない）の記事用である。
テレビは無い。
- 5 2/17日8時と13時のラジオ・ヴァヌアツの英語放送で、日本からの救援物資の到着を放送。ビスマラ語（現地語）では数回放送された由。
新聞はweeklyのため、次回は2/20（土）に発刊されるものに記事がのる予定。
九門、津田両専門家（JICA派遣の航空無線要門）に空送を依頼した。
- 6 2月17日（水）16:00 時 内務大臣に会見
 - ・予想以上に早い日本政府の対応に感謝の意を表明。
 - ・上記のとおり、建設用資材の援助を依頼したい旨の発言あり。
 - ・去年のサイクロン uma に係る日本からの援助、電話器400台近くが（一部は携行で供与済み）今やっと届くところ、とのこと。

5. 救援資材の行方

- 1 国家災害管理事務所は、向う4ヵ月の契約で被災地へ物資を運ぶ算段をしている由。
日本からの救援物資も来週（2月22日の週）中には被災地へ向けて船で搬送を開始するとのこと。但し、被災地の北部諸島へは1週間から10日程日数がかかる由。
- 2
 - ・ジャック・ハンマー×4台・・・浅井戸（5～6m）掘り用
水道局の地方水道管理事務所の管轄
 - ・テント（7張り）・・・救援センターとして使用
内務省災害管理事務所の管轄
 - ・発電機・・・ラジオ・ヴァヌアツの地方局で
“standby for communication” に
使うとのこと

内務省情報局の管轄
 - ・水タンク（10台）・・・各被災地の真水（生活用水）預水用
内務省災害管理事務所の管轄
 - ・医療品・・・各被災地での余備として使用される
保健省
とのこと（保管）

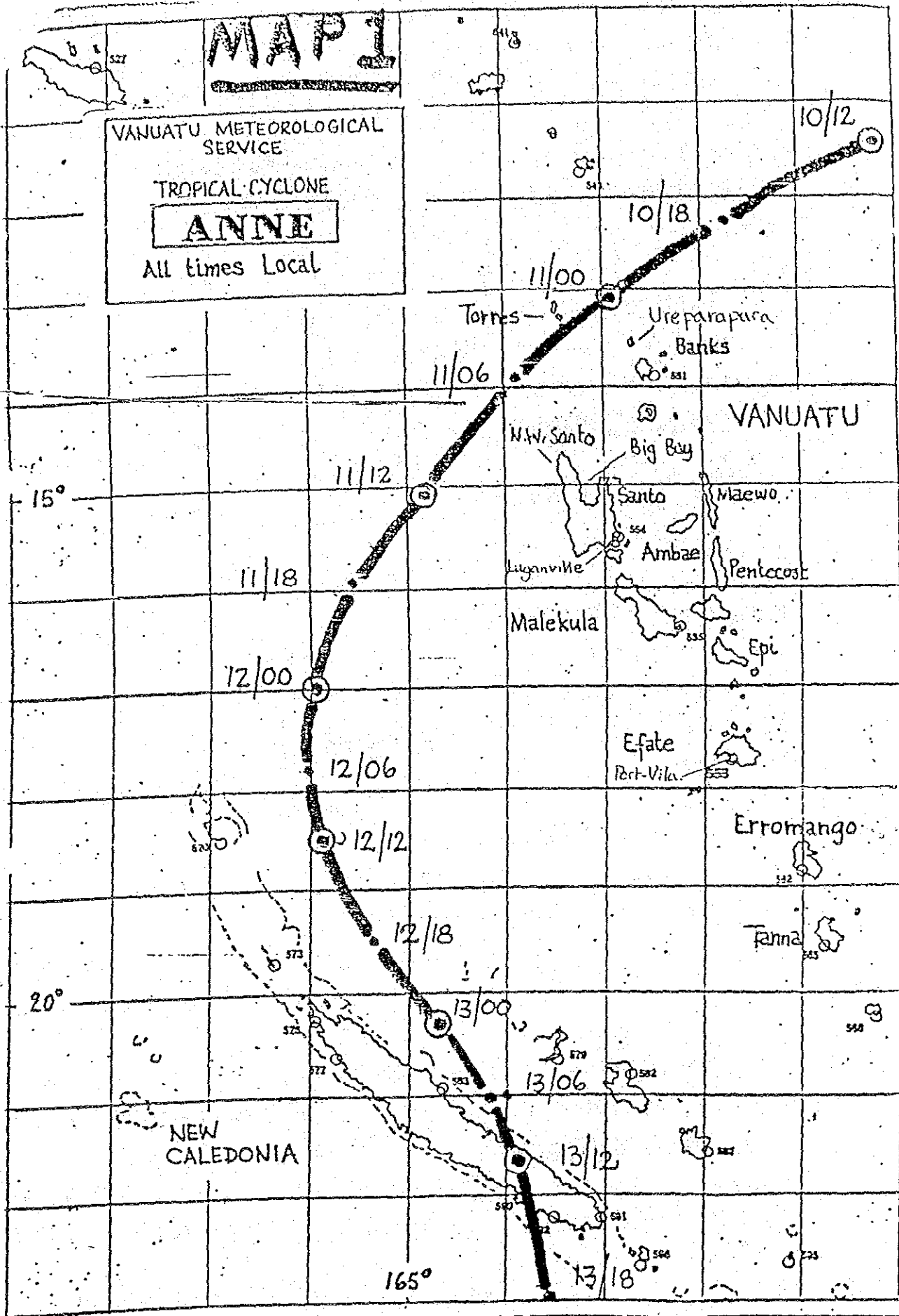
MAP 1

VANUATU METEOROLOGICAL SERVICE

TROPICAL CYCLONE

ANNE

All times Local



MAP 2

SKETCH MAP OF THE TURRES ISLANDS: Main Villages and Linua Airstrip

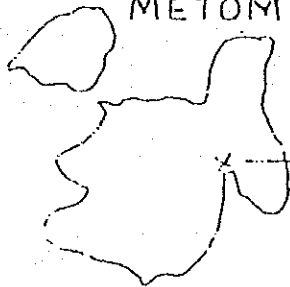


HIU

Gaugamenu Village

Yokwana Village

METOMA



TEGUA

Lateu Village



LOH

Linua Airstrip

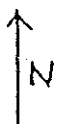
Lungharigi Village

Penuha Village

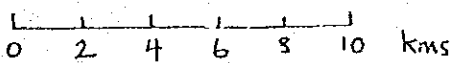
UREPARAPARA
approx. 60 kms

TOGA

Liganville,
Espirito Santo
approx 230 kms



Scale: approx 1/200,000



prepared by NPSO, Port-Vila, Jun 1983.

(8) ブラジル洪水災害

派遣の経緯及び概要

2月5日～6日、リオデジャネイロ州を襲った台風により、リオデジャネイロ北方50kmにあるベトロポリス市及び北西部のデューケ・デ・カシアス市を中心とする地域において、豪雨のため洪水及び土砂崩れが発生、11日現在、死者 188名、被災者は 8,500人以上に達し、また、負傷者も多数発生したため、被災民は食糧不足に加え衛生状態の悪化が懸念されている状況にある。

この為、2月8日ブラジル政府は我が国に対しテント、医薬品の援助要請を行なった。

これを受けて、JICAは台風による被災状況の把握、医療ニーズの調査、医薬品、医療機材の供与等を目的とした国際緊急援助隊（救急医療チーム）を派遣することを決定した。

1	派遣国	ブラジル
2	災害区分	豪雨による土砂崩れ, 洪水
3	災害発生時期	2月
4	災害の規模	死者 151名, 負傷者 548名, 被災者 5,856名
5	派遣区分	JMTDR
6	派遣の目的	①資機材, 医薬品の供与 ②被災状況の調査 ③援助要請の調査
7	派遣期間	2月14日～2月21日
8	チームの構成	調整員 1名
9	受入機関	ブラジル国災害対策本部
10	活動の場所	リオデジャネイロ市
11	活動の内容	医薬品, 医療資材の供与, 被災状況及び援助要請調査
12	携行機材	医薬品, 医療資材の供与

日程、メンバー

派遣期間：1988年2月14日～2月21日

メンバー：

氏名	所属先	担当業務
青山 豪	JICA神奈川国際水産研修センター総務課長	業務調整

派遣日程

日 程	
2月14日(日)	成田発(18:00) RG-833便
15日(月)	リオデジャネイロ着(7:25) 援助物資通関完了(9:30) 援助物資引渡し(12:00) ヘリコプターによる現地視察(14:00～)
16日(火)	資料整理、事務所との打合せ
17日(水)	ペトロポリス地区現地調査 リオ州市民救援隊関係者打合せ
18日(木)	資料整理、報告書作成 総領事館、JICA事務所報告
19日(金)	リオデジャネイロ発(23:45) RG-830便
21日(日)	成田着(18:30)

携行機材

医薬品	(抗生物質他)
注射器	22万個
注射針	22万針
手術用手袋	5万組

被害状況

昭和63年2月5日～6日、リオデジャネイロ州を襲った台風によりリオデジャネイロ北方50kmにあるペトロポリス市及び周辺地域において、豪雨のため洪水及び土砂崩れが発生。被害状況（2月14日現在）は以下の通りである。

都 市 名	避難者数（人）	死 者（人）	負傷者（人）
リオデジャネイロ	3,150	20	35
ペトロポリス	3,947	166	601
デューケ・デ・カシアス	3,558	3	4
ノーバ・イグアス	975	6	2

（その他）

総 計	13,640	205	659
-----	--------	-----	-----

（2月16日現在 死者 206人、負傷者 659人、避難者12,415人）

援助物資の引渡し

2月15日内務省市民救援隊調整官立ち会いのもと、塚田総領事を通じリオデジャネイロ州衛生長官（知事代理）に引渡された。引渡し時には新聞社2社及びTV、ラジオ局1社が取材し、TV及び新聞により報道された。

相手国の対応

内務次官及びリオ州知事は、今回の日本政府の迅速な対応に対し、ブラジル国民を代表し、深甚なる謝意を表明した。

州市民救援隊（消防局に相当）はカーニバル関連の警備等で極めて多忙であったが、日本側の要求に迅速に対応し、空からの現地視察も可能となった。

リオデジャネイロ州市民救援隊（消防局に相当）は昨年9月、19名の隊員がJICAの研修（渡航費はブラジル側負担、滞在費等は日本側負担）を受けたこともあって、非常に協力的であり、援助物資の引取り及び現地視察等全て順調に行なわれた。

昭和63年 2月22日
神奈川センター青山 豪

ブラジル国洪水災害に対する 緊急援助報告

1. 日 程

2月14日(日) 18:00 東京発RG833
15日(月) リオデジャネイロ着 7:25
9:30 通関完了 12:00 引渡し 14:00 ~
アリコターによる現地視察
16日(火) AM: 資料整理
PM: 事務所との打合せ
17日(水) AM: }
PM: } ペトロポリス方面現地調査、リオ州市民救援隊
関係者打合せ
18日(木) AM: 資料整理・報告書作成
PM: 総領事館・JICA事務所報告
19日(金) 23:45 リオデジャネイロ発RG830便
(03:45)
20日(土)
21日(日) 東京着 18:30

2. 供与資機材

注 射 器	4種	22万個	5,645,000円
注 射 針	2種	22万針	1,716,000
手術用手袋	4種	5万組	7,921,000
医 薬 品 (抗生物質 鎮痛剤等7種 1万~2万人分)			7,021,400
計	156箱	FOB JAPAN	22,303,400円
輸 送 費			15,744,825円
合 計			38,048,225円

この他資金援助として15万ドル供与

3. 被災内容

- (1) 災害発生時期 昭和63年2月5日～6日
 (2) 被災地域 リオデジャネイロ北方50kmにあるペトロポリス市及び周辺12都
 (3) 被害状況(1988. 2. 14日 16:00 現在)

	避難者数	死者	負傷者
	人	人	人
ドゥーケ・デ・カシアス市	3,558	3	4
サン・ジョアン・ド・メリチ市	21	0	0
ノーバ・イグアス市	975	6	2
テレゾポリス市	535	5	17
ニロポリス市	404	0	0
リオデジャネイロ市	3,150	20	35
ペーロポリス市	3,947	166	601
カショエイラ・デ・マカク市	230	0	0
アングラ・ドス・レイス市	500	0	0
バーラ・ド・ピライ市	0	1	0
ニテロイ市	39	0	0
イタオカラ市	121	0	0
サン・ゴンサロ市	160	4	0
計	13,640	205	659

(注) 1. 2月16日 11:35現在、死者206人、負傷者659人、避難者12,415人となっており上記データより死者はペトロポリスに1名増えている。ドゥーケ・デ・カシアヌ市を主として避難者は減少し始めている。

(注) 2. 2月17日のペトロポリス方面現地調査時新たに2名の死者が発見されていることから死者の数はまだ増える可能性がある。行方不明者の正確な数は不明。

4. 各国援助状況

リオ・デ・ジャネイロ総領事館調べによる各国の援助状況（63.2.12現在）は次のとおり。

(1) イタリア：

毛布3,000枚、装備一切を備えた家族用テント90張（300,000ドル相当）の贈与。

(2) フランス：

在仏の民間慈善団体より伯国の同種団体（ライオン財団）に37,000ドルの寄贈。仏政府は災害後の家屋復旧に援助を行う模様。

(3) ベルギー：

相当量の医薬品の他、168,000ドルを贈与。

(4) 英国：

金銭の贈与については目下検討中なるも当面毛布500枚及び相当量の食料品を寄贈。

5. 伯国側の対応状況

- (1) 2月15日RG833便にて到着(7:25)した航空貨物156箱は中村領事、加茂所長、リオ州市民救援隊調整官立合いのもと、極めてスムーズに通関が行われた。(9:30完了)
- (2) ブラジル政府への引渡しは同日12時より、今回の水害対策本部になっている州市民救援隊事務所(本庁とは別)に於て、同本部へ到着していた現物を確認のうえ内務省連邦市民救援隊調整官の立合いのもとに塚田総領事を通じてリオ・デ・ジャネイロ州衛生長官(知事代理)に引渡された。
- (3) 報道関係者は新聞者が2社TV・ラジオ局が1社取材に来ていて、TVにはカーニバル実況中も含め数回放映されたが新聞については運悪く16日が休刊の上に17日がカーニバル関係のニュースの陰にかくれ小さな報道にとどまった。
(別添1)
- (4) 供与した薬品類は被災した各市の病院等へ配布されるが、現在まだ被害状況がしだいに判明するにつれて増えてくる段階にあり、また雨雲は依然停滞しており、十分に水を含んだ所へまた大雨が来れば二次災害も十分予想されることから様子を見つつ配布されるため最終配布先の内訳は未だ不明なるも判明しだい報告をもらうこととなっている。
- (5) 州市民救援隊の関係者は、災害救助活動以外にカーニバル関連の警備にも追われて極めて多忙な中、我々の要求にも迅速な対応でてきばきと応じ、現地視察も到着した日の午後2時には軍の準備したヘリコプターにより空からの視察が出来た。
- (6) カーニバルが一段落した17日には長官自らが、最も被害の大きかったペトロポリス方面への視察に同行し、ペトロポリスの消防庁舎自体が真先に土砂くずれに合ったため、庁舎は使えず一般救援活動への出動がおくれ人命救助に多大の支障があったためやむなく休暇中の学校を借りて活動している様子や無学と貧困が被害を大きくした一因となっているというような説明も受けた。
- (7) リオ・デ・ジャネイロ州市民救援隊は昨年9月19名が2週間日本に於てJICAの研修(渡航費は伯側持ち、滞在費は日本持ち)を受けていたため日本の消防技術が他の先進国より、抜群にすぐれているとの認識があり日本からもっと学びたいという意向が強く感じられ研修の効果が大きかったと思われる。
- (8) 即ち、日本は地震や台風等によく見舞われる災害国であるがこれを克服するために続けられてきた努力により、防災服から消防車、救急車といったものに至るまで使い易く細かい所まで改良された機材を造りだした技術力、小型無線からファクシミリを含む優れた通信・連絡システム、コンピューターを活用した

被害の集計分析能力等どれをとっても日本は最先端を行っていることが解ったため、今まではブラジルの消防体制は西ドイツを手本としてやってきたが今後は日本をモデルとして行きたいということであった。

- (9) また実際に災害現場でとぼしい機材で体をはって救援活動にたづさわっているが災害状況把握一つにしても遅れがちで対策も後手後手に回ることもある彼等にとって、日本の機動力がうらやましく思われたこともあってか、今彼等にほしいものは金ではなく実際の機材がほしいということであったが、これは資金供与の場合、その金により必ずしも末端で働く彼らが本当に必要とする物を得られるとは限らないということを懸念したものではないかと思われる。(購入物を指定した資金援助を希望)
- (10) 海外からの援助か、伯国内での予算獲得か等の可能性は考慮に入れず現場サイドから救援活動に必要な機材のリストアップされたものは別添2のとおり。
- (11) 以上のとおり荷物到着がカーニバルの真最中であったにもかかわらず引取り、引渡し、現地視察等全て極めて順調に運ぶことが出来たことは、ブラジル側自体に事を迅速にとり進める能力を持ち合わせていたことではあるが、現地総領事館、JICA事務所の事前手配の良さと併せ、上にも記したとおり日本における研修の効果により消防関係者を日本びいきにしたことも大きく関係したことと思われる。

今後、この友好関係をさらに高めて行くためにも、研修員受入れの継続実施、単独機材供与、ミニプロジェクト等可能な範囲での技術協力を行うことにより、今回緊急医療援助をさらに実りあるものとして行くことも可能と思われる。

6. 主な面会者

在リオ・デ・ジャネイロ日本国総領事館

塚田総領事

中村領事 池田書記官

JICAリオ・デ・ジャネイロ事務所

加茂所長

金子総務課長

リオ・デ・ジャネイロ州市民救援隊

Cor. EDISON DE ASSUMPCAO FREITAS 長官

Cor. EDSON LAVARES DA SILVA

Sr. JOSE PAULO CORTES DE ARAUJO

Sr. MAJOR EUGENIO PASCELLI

リオ・デ・ジャネイロ州衛生局長官

Dr. JOSE CRVALHO DE NORONHA

リオ・デ・ジャネイロ州

Sr. MARCIO MOREIRA ALVES

悲劇の為観光客は、ペトロポリスから遠ざかる。

ペトロポリス市のカーニバルは商店にとっては、悲しみと損害だけであった。クラブではダンスに出た人の数は少なく、また、ウィンドウにおいては、仮装衣裳は売れず多くの商店に残ったものは借金である。これら全てが、6日以降街で起きた地滑り及び土砂崩れの結果である。約200名が死亡し、負傷者の数は500名、家屋を失った人の数は5,000人である。

通常、この時期は観光客でホテル等も一杯な筈であるが、悲劇的な結末となった災害の為、観光客の足は遠のいた。ペトリポリタノ、クラブで日曜日の明け方行なわれる伝統的な白黒（ブランコ、エ、プレット）舞踏会は、当所の上流社会が集まるが、通常の参加者数は集まらなかった。

圧迫した雰囲気、災害の為に親類、家屋を失った人々が舞踏会を開催するクラブを侵入したりまた強奪したりすることを考えてペトロポリタノ、カーニバルのプロモータ達は被害者を援助する為のpoolを行なった。

七つのクラブの幹部は金曜日の夜協議して、イベントより生ずる純所得の10%を家屋を失った人々の為に寄付することに決めた。ペトロポリタノ、クラブは公式舞踏会（BRANCO E PRETO）以外に舞踏会を5回、子供のための昼間のダンス、パーティを3回開催した。クラブの会長アイルトン、シルベイラ、コッレイア氏は寄付は正当であったと理解して居り、“ペトロポリス市は、かつて、此の様な情況に直面したことがない。その意味からも、我々の義務を果たさずに済ますことは出来ない”と言っている。

加えて、「カーニバルの収入は、従業員の給料一年間分を維持する為に必要であり、この収入無しではクラブは生存出来得ないが、寄付をすることに決めた。今は、批判をする時ではなく、多くの救助をする時である。」と言った。

ペトロポリタノ、クラブには二つの大広間（サロン）があり、踊る人の数が少なかった為結果的にはクラブは損害を被っている。前MOMO王のエジソン、サンタナが舞踏会を活気づける為に契約されていたが、結果的にはそれすら雰囲気を盛上げるには役立たなかった。エジソンはアイルトン、コッレイア氏から街の鍵を受取り、群衆に対して、悲劇を忘れて楽しんでほしいと呼びかけた。

踊った多くの人は、悲しみと痛みの連帯意識を仮装衣裳で表現した。商店の従業員で

あるエリアネ、スカルチーネ（女性）26才は、未亡人の衣裳でクラブに入った。彼女はミニを着て、左手に白い百合の花を持ち、顔は常に黒いベールで覆い、自分の衣裳につきつぎのように説明した。

”私は、街の未亡人です。親類や友人の死で苦しんでいるペトロポリタノ住民です。けれど、ことわざにも言うではありませんか、この壮観な催しは止る訳にはいかないと。だから、私は、尽きるまで踊るのです。そうしなければ、隅で泣いていなければならないでしょう。”

市役所は、連邦政府が約束した資金が許可されるのを待って居り、その間家を失った人々は、学校や貧困収容所に仮に用意された収容所に入っている。その数は51ヶ所で4,178名の被害者を収容するには不十分である。市長のパウロ・ラッテス氏によれば、ペトロポリス市は、まだ1981年の大暴風雨の被害者を収容する場所を求めている。氏はまだ停止状態にあり、普通になっているのは大衆輸送機関だけである。

救援物資について

州政府は、昨日の午前、バイシャダ、フルミネンセ地域及びペトロポリス市の被害者に対して、最大の救援物資を受領した。日本政府は、国際協力事業団（JICA）を通じて、38万ドル（約3,800万クルザードス）に見積られている医薬品5,870キロを寄贈した。日本の総領事ツカダ、チヒロ氏及びリオのJICA所長カモ、トシロ氏は、約6トンの救援物資をPRACA DA BANDEIRAにある自治警察委員会に引渡した。総領事は、尚、日本政府は金銭で15万ドル（約1千500万クルザードス）寄贈すると言った。日本の救援物資は州厚生局が作成した国内市場で調達が困難な品目—特に、使い捨ての注射器と注射針—用意された。注射器22万本、注射針同本数、使い捨ての手袋5万個、2万5千人用のペニシリン、下熱剤、鎮れん薬、抗リューマチ薬、抗リューマチ剤、抗ぜんそく剤及び痛み止が届けられた。次官マリア、マヌエーラ氏、自治警察局長官エヂソン、アッスンソン氏と共に物資の寄贈に参加していた州厚生局長官ジョゼ、ノロンニャ氏によれば、医薬品は必要に応じて配布される。消防団の緊急救助隊の軍医である陸軍少佐シヂネイ、ソウザによれば、州政府はトリプル及びセービン（小児麻痺）のワクチン接種を行なう。

州自治警察局 (SECRETARIA DE ESTADO DA DEFESA CI

VIL) - リオ、デ、ジャネイロ

一般市協議会部門

Trad. 011/88

品目	数量	単価	総額	OTN数
個人使用器材				
ミナス、タイプ、ヘルメット	50	2.595,00	129.250,00	185,84
防水型カンテラ	100	900,00	90.000,00	129,40
水筒	200	1.200,00	240.000,00	345,07
救命胴着、NAUT-SERVICEモデル、Mサイズ	100	1.800,00	180.000,00	258,81
救命胴着、NAUT-SERVICEモデル、Lサイズ	100	2.600,00	260.000,00	373,83
ジャングル用長靴	100	3.400,00	340.000,00	488,86
投 袋	100	2.600,00	260.000,00	373,83
雨ガッパ	100	3.500,00	350.000,00	503,24
ゴム長靴	100	1.900,00	190.000,00	319,06
手袋	300	800,00	240.000,00	345,08
車 両				
PICK-UPトヨタ	07	1.680.000,00	11.760.000,00	16.908,70
500kg用ホッパー車	03	3.250.000,00	9.750.000,00	14.018,69
オートバイ 350R ホンダ	10	315.156,00	3.151.560,00	4.531,16
トラック MICROVAN	02	6.500.000,00	13.000.000,00	18.691,58
ボート類				
ゴム、ボート CONDOR410	20	67.374,00	1.347.480,00	1.937,42
ボート モデル DM-47-110人乗り	02	83.000,00	166.000,00	238,68
船外機	20	556.164,00	11.123.280,00	15.993,21

別添P

DESCRIÇÃO	数量	単価	総額	O.T.N.数
オペレーション及び活動支持用器材				
トイレット、キャビン、簡易型	10	73.938,00	739.380,00	1.053,09
トイレット、キャビン 化学処理可型	04	91.248,00	364.992,00	524,79
ソックスのベッド	100	6.570,00	657.000,00	944,64
炊事用テント	05	8.620,00	43.100,00	61,97
担架	20	4.570,00	91.400,00	131,42
網 (PERLON) -メートル	2000	3.200,00	6.400.000,00	9.202,01
天幕	40	12.600,00	504.000,00	724,66
携帯発電機	10	90.000,00	900.000,00	1.294,03
照明器具	50	46.000,00	2.300.000,00	3.306,97
電線-照明用補充架線 (メートル)	1000	600,00	600.000,00	862,68
細線 (メートル)	500	1.200,00	600.000,00	862,68
丸とじし付線試のこ	15	79.000,00	1.185.000,00	1.703,81
線試のこ	15	69.000,00	1.035.000,00	1.488,13
TIRFOR	20	87.000,00	1.780.000,00	2.559,30
スコップ	300	720,00	216.000,00	310,56
ピックル	200	740,00	148.000,00	212,79
くわ	200	680,00	136.000,00	195,54
つち	300	1.100,00	330.000,00	474,78
ピックル型おの	100	1.600,00	160.000,00	230,05
通信用器材	84	200.000,00	16.800.000,00	24.155,28
移動ラジオ	126	12.000,00	1.512.000,00	2.173,97
携帯ラジオ				
TOTAL GENERAL			88.479.442,00	128.125,81

リオ. デ. ジャネイロ市 1988年2月17日

注: 1988年のO.T.N (四捨) の価格... C2\$ 695,50

REDISTRIBUIÇÃO DOS MEDICAMENTOS RECEBIDOS POR
 DOAÇÃO DO JAPÃO DURANTE DAS ENCHENTES NO ES
 TADO DO RIO DE JANEIRO 1938

1938年、州州洪水に対し日本が寄贈せられた
 医薬品の配布

MEDICAMENTO 医薬品名	DESCRIBÇÃO 全品 目録 Roseb.	SMS Rio de Janeiro 衛生局	SMS Duque de Caxias 衛生局	SMS Niterói 衛生局	SMS São Gonçalo 衛生局	SMS Mergulhão 衛生局	SMS Volta Redonda 衛生局	SMS Margarita 衛生局	SMS Nilópolis 衛生局	SMS Asp. de Fátima 衛生局	Posse Hospital 衛生局	SMS Total 衛生局	現況 Esque Actual 在庫
PERICILINA G. BENZATINA COMP ハニシリン G. ベンザチン 錠剤	80.000	1.000	20.000	1.000	2.000	2.000	5.000	5.000	5.000	1.000	1.000	30.000	—
SALICILAMOL XP. FR. 500 ml サリチル酸 7723	500		200			20					10	250	—
HIOSCINA SOL. INJ. AMPOLA イオシナ	3.500											3.500	—
DIPYRIDA 1G SOL. INJ. AMPOLA ディピロイ	5.000											5.000	—
INDOMETACINA 25 mg CAPS. インドメタチン	90.000	1.000	40.000		1.000	2.000		1.000	1.000			40.000	—
PAPACETAMOL PÓ パアセチル 粉	75.000g												
PERIC. G. BENZATINA GRÁNULOS ハニシリン G. ベンザチン 粒剤	45.000g							2.000					

Em fase de transformação e embalagem no Instituto Vital Brazil para redistribuição nos hospitais da rede do SES/RJ.
 州州衛生局各病院に配布のため、ワイタル・ブrazil研究所にて加工・包装中。

1988年 川州衛生局に対し日本から寄附された
 医薬品等の配布
 REDISTRIBUIÇÃO DO MATERIAL RECEBIDO POR DOAÇÃO DO
 JAPÃO DURANTE AS EMERGENTES NO ESTADO DO RIO DE JANEIRO

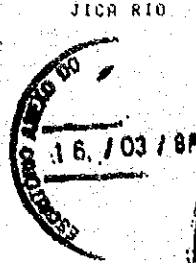
- 1988 -

DESCRICOES	Município de São João del-Rei		Município de Leopoldina		Município de São João del-Rei		Município de Leopoldina		Município de São João del-Rei		Município de Leopoldina		Total Distribuído	Estoque Final
	Origem	Quantidade	Origem	Quantidade	Origem	Quantidade	Origem	Quantidade	Origem	Quantidade	Origem	Quantidade		
30.000	30.000												30.000	-
Acúcar doc. 25 x 7	180.000	45.000	27.000	12.000	24.000	12.000					32.000	12.000	184.000	6.000
30.000	20.000												2.000	18.000
Borracha auto. de 3 ml	50.000	8.000	8.000	12.000	6.000	6.000							50.000	-
30.000	100.000	10.000	10.000	5.400	10.300	5.400							100.000	-
30.000	50.000	13.200	8.800	3.300	3.300	3.300	500						46.700	3.300
30.000	44.740	8.240	8.240	3.900	3.900	3.900	1.944	3.088	3.088	3.088	1.572	748	42.644	2.095
30.000	5.260			760									5.260	-

SECRETARIA DE SAÚDE/RJ
 DEPARTAMENTO DE SUPRIMENTOS E INSUMOS BÁSICOS

88 04/07 15:29 2 021 2951391

SHIBU-CHG			
-----------	--	--	--



引添



SERVIÇO PÚBLICO ESTADUAL
SECRETARIA DE ESTADO DE SAÚDE

CARTA GAB. Nº 14/88

Rio de Janeiro, 09 de março de 1988

ILMO. SR.
TOSHYRO KANO
M.D. DIRETOR GERAL DA JICA
ESCRITÓRIO ANEXO DO CONSULADO GERAL DO JAPÃO
RUA LAURO MULLER 116/GRUPO 3805-(RIO SUL)
CEP. 22.290 - RIO DE JANEIRO/RJ

Senhor Diretor,

Em nome do Governador do Estado do Rio de Janeiro e do povo fluminense vimos, através de sua pessoa expressar nossa profunda gratidão pela cooperação prestada ao atendimento dos flagelados da enchente que recentemente nos assolou.

Louvável a participação dessa agência, num momento com este, vimos a demonstrar o elevado espírito público de sua Direção.

Atenciosamente,

João Carlos de Noronha
JOSE CARVALHO DE NORONHA
SUBSECRETÁRIO DE ESTADO DE SAÚDE

LCB/cbt.



2. 資 料

(1) 国際緊急援助隊の派遣に関する法律

1. 「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」の公布、及び施行

1-1 法律制定の背景

我が国は従来海外において大規模な災害が発生した場合には、被災国が緊急に必要なとする資金の供与、医療チームの派遣等により対応してきたが、昭和60年9月のメキシコ地震、11月のコロンビアの火山噴火に対する援助の経験等を踏まえ、同年末より特に災害緊急援助のための「人の派遣」につき、従来の医療チーム等に加え、救助人員の派遣を含むより総合的な形での国際緊急援助体制の整備を進めてきた。

その一環として、海外における大規模な災害に対し緊急援助活動を行う人員を国際緊急援助隊として被災国に派遣するためその法的根拠及び手続き等を明確にすべく法律の制定準備を進めてきた。

1-2 法律の成立及び公布・施行

先般第109回臨時国会において、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が各党全会一致で可決、成立し、昭和62年9月16日付けで公布、施行された。

本法制定趣旨は、地震や台風等の自然災害が多く、従ってその対策面で多くの経験と技術的ノウハウの蓄積を有する我が国が、海外の地域（開発途上地域を主に念頭に置いているが、先進諸国も排除していない）で災害（地震、火山噴火等自然災害の他、原発事故、ガス爆発等の人為災害も含む）が発生し、我が国の協力が求められる場合には、被災国政府（国際機関を含む）からの要請に応じて、我が国政府が一体となって専門家等の人員を派遣し、また、緊急援助に必要な援助物資を供与することにより、従来に比し迅速に対応し、かつ、対応の幅を広げ、我が国の国際協力の幅を一層広げようとするものである。

国際緊急援助隊（英文：JAPAN DISASTER RELIEF TEAM (JDR)）は、救助チーム（警察庁、海上保安庁、消防庁の救助隊員より編成）、医療チーム（国際協力事業団（以下JICA）に登録した国・地方公共団体・民間の医師、看護婦等により編成）、専門家チーム（復旧、二次災害防止を目的とし、関係省庁等の技術者より編成）の内から被災国の要請、災害の種類等に応じ適宜組み合わせる災害毎に編成され、国際協力事業

団を通じて派遣されることとなる。(青年海外協力隊OBも、主として調整員、通訳として加わることがある。)

1-3 法律の骨子(法律は別添)

被災国政府等より国際緊急援助隊の派遣要請を受けた外務大臣からの関係行政機関の長への協力要請、関係行政機関、都道府県警察、市町村消防の協力、外務大臣の命令に基づく国際協力事業団による国際緊急援助隊の派遣等が法律の骨子である。

「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」

(目的)

第一条 この法律は、海外の地域、特に開発途上にある海外の地域において大規模な災害が発生し、又は正に発生しようとしている場合に、当該災害を受け、若しくは受けるおそれのある国の政府又は国際機関（以下「被災国政府等」という。）の要請に応じ、国際緊急援助活動を行う人員を構成員とする国際緊急援助隊を派遣するために必要な措置を定め、もって国際協力の推進に寄与することを目的とする。

(国際緊急援助隊の任務)

第二条 国際緊急援助隊は、前条に規定する災害に係る次に掲げる活動（以下「国際緊急援助活動」という。）を行うことを任務とする。

- 一 救助活動
- 二 医療活動（防疫活動を含む。）
- 三 前二号に掲げるもののほか、災害応急対策及び災害復旧のための活動

(関係行政機関との協議)

第三条 外務大臣は、被災国政府等より国際緊急援助隊の派遣の要請があった場合において、第一条の目的を達成するためその派遣が適当であると認めるときは、国際緊急援助隊の派遣につき協力を求めるため、被災国政府等からの当該要請の内容、災害の種類等を勘案して、別表に掲げる行政機関（次条において「関係行政機関」という。）の長及び国家公安委員会と協議を行う。

(関係行政機関等の措置)

第四条 関係行政機関の長は、前条の協議に基づき、その職員に国際緊急援助活動を行わせることができる。

- 2 国家公安委員会は、前条の協議に基づき、都道府県警察に対し、その職員に国際緊急援助活動を行わせるよう、指示することができる。
- 3 都道府県警察は、前項の指示を受けた場合には、その職員に国際緊急援助活動を行わせることができる。
- 4 消防庁長官は、前条の協議に基づき、市町村（東京都及び市町村の消防の一部事務組

合を含む。次項において同じ。)に対し、その消防機関の職員に国際緊急援助活動を行わせるよう、要請することができる。

5 市町村は、前項の要請を受けた場合には、その消防機関の職員に国際緊急援助活動を行わせることができる。

(外務大臣の国際協力事業団に対する命令)

第五条 外務大臣は、第一条の目的を達成するため適当であると認める場合には、国際協力事業団に対し、国際緊急援助活動を前条の規定に基づき行う国若しくは地方公共団体の職員又は同事業団の職員その他の人員を国際緊急援助隊として派遣するよう、命ずることができる。

2 前項の命令は、第三条の協議が行われた場合には、当該協議に基づいて行うものとする。

(国際緊急援助隊の任務の遂行)

第六条 外務大臣は、被災国政府等と連絡を密にし、その要請等を考慮して、国際緊急援助隊の活動の調整を行う。

2 国際緊急援助隊は、被災国政府等の要請を十分に尊重して活動しなければならない。

(国際協力事業団による業務の実施)

第七条 国際緊急援助隊の派遣及びこれに必要な業務(国際緊急援助活動に必要な機材その他の物資の調達、輸送の手配等を含む。)は、国際協力事業団が行う。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

別表（第三条関係）

警	察	庁	資源工	ネル	平一	庁
科	学	術	運	輸		省
環	境	庁	海	上	保	安
国	土	庁	気		象	庁
文	部	省	郵		政	省
厚	生	省	労		働	省
農	林	産	建		設	省
通	商	産	消		防	庁

(2) ヘリコプター訓練

案件名 国際緊急援助体制ヘリコプター分解・組立・搭載訓練概要(結果報告)

1. 日時: 昭和33年3月14日(月)～16日(水)

2. 場所: 東京ヘリポート及び新東京国際空港(成田空港)

3. 目的: 国際緊急援助体制整備の一環として、海外での大規模災害に際しヘリコプター出勤の必要なケースを想定し、事前にヘリコプターの分解・組立・搭載の訓練を実施し、所要の作業技術・知識を修得することにより、安全かつ効率的なヘリコプターの派遣体制の確立を図る。

4. 実施した主たる内容

- (1) 東京消防庁所有のアエロスベシヤル式SA365NドーフアンII型機(14人乗り)を東京ヘリポートにて分解(梱包しパレットにくくりつけ)。
- (2) パレットにくくりつけられた分解機体を成田空港へ陸上輸送。
- (3) 分解機体をパレットタイズしこれを日本航空所有のB747貨物機(JAL 8123)にサイドドアより搭載・取卸し。
- (4) パレットタイズされた分解機体を再び陸送し、東京ヘリポートへ陸上輸送。
- (5) 東京ヘリポートで分解された機体をパレットから荷下ろしし、組み立て、テストフライトの実施。

5. 訓練参加機関

- (1) 東京消防庁航空隊 (13名、内航空隊は11名)
- (2) 自治省消防庁 (1名)
- (3) 警察庁 (2名)
- (4) 海上保安庁 (3名)

- (5) 運輸省 (1名)
 - (6) 外務省 (1名)
 - (7) 日本航空協 (6名)
 - (8) 全日空整備係 (3名)
 - (9) 国際協力事業団 (4名)
- (計 36名)

注: ()内は訓練参加者

6. 訓練結果

(1) 東京ヘリポートにおける分解から成田空港までの陸送及び同空港での日本航空所有のB747貨物機への搭載、積載までの純作業時間は8時間であった。その内訳は次の通り

- ① 東京ヘリポートにおける分解・梱包及びパレットにくくりつけ 4'40"
 - ② 成田空港への陸上輸送 1'30"
 - ③ 成田空港でのパレットタイズ搭載 1'20"
- 計 7'30"

B747貨物機からの取卸し、及び東京ヘリポートでの組立、テストフライトまでの所要時間は9時間12分であった。

その内訳は次の通り

- ① B747貨物機からの取卸し、輸送車輛への搭載 15"
 - ② 輸送車輛からの積降ろし、組立、テストフライト 9'05"
- 計 9'20"

(2) 今回の訓練は関係機関の協力により極めて順調に行われたが、実際のオペレーションにおいても効率的に実施する必要上、訓練参加機関による反省会を開催し今後の参考に資することとした。

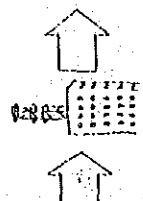
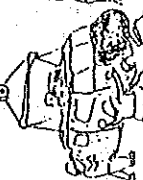
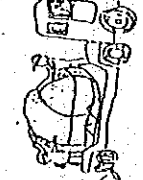
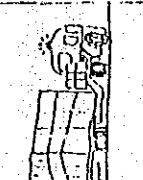

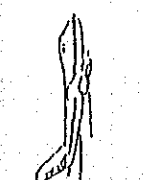

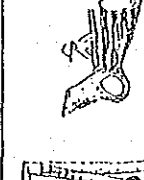




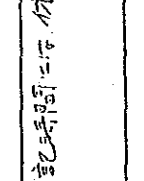
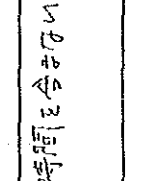
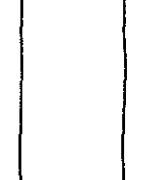
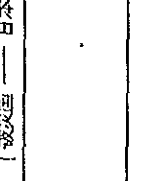
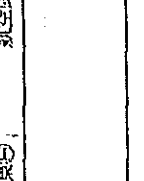

羽 川 線 運 送 結 果 行 動 表

別表2-1

日 時	06 30	07 20	08 15	09 09 30 45	10 30	11 55	13 05	15 25	16 30	19 00	20 00
一 日 目	東京消防隊 航空班 作業活動班	航空班 出動完了	六反出動完了 07:45	羽田空到 08:45	航空班着 09:45	分機班着作業 1. 分機班着作業 2. 国際線との連絡調整 3. パレット作業 4. 搭載作業	陸上輸送 (1+30) (トレーラー3台) (国際線)	東京へ向うとの連絡出発 (JAL)	確認作業 (1+05)	各国係留の打ち合わせ	宿 泊
二 日 目	東京消防隊 航空班 作業活動班	航空班 出動完了	作業内容説明及び打ち合わせ (日保P.R.マンク)内	箱崎作業 (1+15) リパレット作業 (JAL)	作業員学 (JAL)	貨物専用機への積込作業 (0+45)	陸上輸送車両 への積込作業 (0+20)	東京へ東京羽田航空(到着)	格納作業 (0+15)	第二日目作業終了	宿 泊
三 日 目	東京消防隊 航空班 作業活動班	航空班 出動完了	組立作業 (3+50)	組立作業 (0+35)	陸上輸送 (1+10)	陸上輸送 (1+10)	東京へ東京羽田航空(到着)	飛行準備完了	飛行準備完了	飛行後点検	宿 泊

1. () 内の時間は、休時間を含み、
2. 使用貨物機等の員数台数及び積込作業は四日目に実施する。

国際緊急援助隊の派遣に伴う航空機派遣行程表

項目	要請	出発命令	分解・梱包・搭載	陸上輸送	専用航空機への搭載	現地空港へ移動
時間			4÷40	1÷30	1÷20	
概要	 東京消防庁 航空隊				リフティング機 作茶台 	
経過	0	4÷40	6-10	7-30		
場所		東京へリポート	成田	成田	日本	被災国
項目	専用航空機からの積り下ろし	組立	航空隊	被災国	被災国	被災国
時間	0-15	7-40		1-25		
概要	 JA8000					
経過	0	0-15	7-55	9-20		
場所			被災国			
項目	災害活動終了	空港への移動	分解・梱包	専用航空機への搭載	日本へ移動	航空隊到着
時間					陸上輸送 1÷10	
概要						
経過						
場所		被災国			被災国—日本—成田—東京	航空隊
備考	1. 上記時間には休憩や食事時間を含まない。					

国際緊急援助隊へリコープター搭載試験参加者名簿

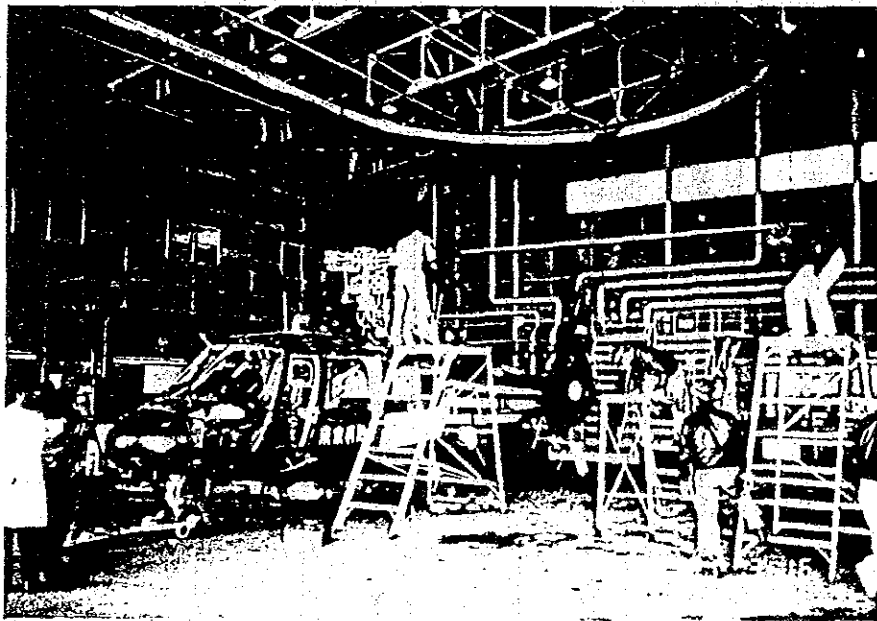
88.3.9 医療協力部特別業務室

No	氏名	生年月日	年齢	所 属	宿 泊	空港立ち入りの方法及び到着時間	備 考 (車種No.及び経路)
1	秋田 勝行	S18.10.25	45	(株)日航エアポートエンジニアリング 運送事業部		車 16:30	先導者 千葉111ハ1312 許可NO. 5140
2	田中正男	S25.3.19	37	(株)日航エアポートエンジニアリング 運送事業部		本場インター (湾岸道路) ↓	千葉111き2459(前)6197 千葉111こ2008(後)6198
3	坂本 安正	S38.6.12	25	(株)日航エアポートエンジニアリング 運送事業部		千葉北インター (関東自動車道) ↓	千葉111き1486(前)5126 千葉111こ1983(後)6119
4	毛利 孝	S28.12.8	35	(株)日航エアポートエンジニアリング 運送事業部		成田インター	千葉111き 517(前)5131 千葉111こ1790(後)5132
5	大 胡 栄二	S13.3.21	50	国際倉庫(株) 海運貨物部 東京営業所長	○		先導者 千葉111ハ1312 許可NO. 5140
6	佐々木 孝二郎	S 4.8.20	58	国際倉庫(株) 海運貨物部 機工部 課長	○		千葉111き2459(前)6197 千葉111こ2008(後)6198
7	稲 典彦	S16.4.15	46	国際倉庫(株) 海運貨物部 機工部 係長	○		千葉111き1486(前)5126 千葉111こ1983(後)6119
8	寺 沢 昭二	S15.9.10	48	国際倉庫(株) 海運貨物部 機工部 係長	○		千葉111き 517(前)5131 千葉111こ1790(後)5132
9	佐 藤 三 郎	S26.12.21	36	外務省経済協力局技術協力課事務官	○	スカイライナー 18:23 成田空港到着	
10	小 林 包 昭	S10.8.28	52	外務省経済協力局技術協力課企画官	○	同 上	

No	氏名	生年月日	年齢	所 属	宿 泊	空港立ち入りの方法及び到着時間	備 考 (事務No.及び経路)
11	平山 勳	S27.10.15	35	海上保安庁総務部国際課国際協力係主任	○	スカイライナー 成田空港到着 18:23	
12	森 藤 男	S28.4.26	34	海上保安庁装備技術部航空管理官第二整備係長	○		
13	相川 広 秋	S29.12.28	33	海上保安庁第三管区海上保安本部 羽田航空基地整備士	○		
14	鈴木 誠	S22.8.9	40	警視庁航空隊 整備担当主任	○	マイクロバス 16:30	未 定
15	秋 元 博	S24.9.15	38	警視庁航空隊 整備担当	○		
16	狩田 年 宏	S36.6.6	26	運輸省国際運輸観光局国際協力課	○	スカイライナー 成田空港到着 18:23	
17	岡田 栄 亮	S19.2.23	44	国際協力事業団 医療協力部特別業務室	○	同 上 成田空港到着	
18	高木 繁	S22.11.5	40	国際協力事業団 医療協力部特別業務室	○	スカイライナー 成田空港到着 18:23	
19	新納 宏	S30.5.18	32	国際協力事業団 医療協力部特別業務室	○	マイクロバス 16:30	未 定
20	岡 徹 男	S34.6.29	28	(財)国際協力サービスセンター 業務第2部	○	スカイライナー 成田空港到着 18:23	

No	氏名	生年月日	年齢	所 属	宿 泊	空港立ち入りの方法及び到着時間	備 考 (車輦No.及び経路)
21	川村 森晃	S13.1.4	49	全日空整備(株) 小型整備部次長	○		
22	其 倉 希 夫	S26.1.6	36	全日空整備(株) 小型整備部主任	○		
23	稲 垣 正 博	S35.5.29	26	全日空整備(株) 小型整備部	○		
24	金 瀬 康 邦	S 8.2.7	55	東京消防庁整備部航空隊	○	マイクロバス 16:30	岳川22さ2804
25	大 森 取 司	S17.10.8	45	東京消防庁整備部航空隊	○		
26	佐 藤 亘 雄	S10.11.29	52	東京消防庁整備部航空隊	○		
27	村 松 幸 一	S12.9.3	50	東京消防庁整備部航空隊	○		
28	鈴 木 成 之	S17.8.21	45	東京消防庁整備部航空隊	○		
29	野 呂 繁 雄	S15.12.12	47	東京消防庁整備部航空隊	○		
30	伊 藤 敏 二	S16.1.3	47	東京消防庁整備部航空隊	○		

No	氏名	生年月日	年齢	所 属	宿 泊	空港立ち入りの方法及び到着時間	備 考 (車種No. 及び経路)
31	前川 貞之	S26. 6.10	36	東京消防庁装備部航空隊	○		
32	岡庭 良三	S29.12.18	33	東京消防庁装備部航空隊	○	マイクロバス 16:30	岳川22き2804
33	増田 正可	S28. 9.20	34	東京消防庁装備部航空隊	○		
34	大川 幸男	S26. 4.12	36	東京消防庁装備部航空隊。	○		
35	伊藤 敏彦	S27. 5. 2	35	東京消防庁指導広報部広報課		3月15日 8:00	
36	小曾納 武実	S24.11.28	38	東京消防庁指導広報部広報課		3月15日 8:00	
37	金子 照行	S27. 2.27	36	自治省消防庁救急救助課	○	スカイライナー 16:23 成田空港駅着	
38	長坂 光司	T14.10. 4	62	(株)ナガサカ社長	○	マイクロバス 16:30	未 定 使用カメラ 日立VM-500 (VTR-体型)



(3) 予 算

昭和62年度災害援助等協力費実績

(単位、千円)

区 分	当初予算額	通知予算額	支出済額	63年度への繰越額	不 用 額
(項) 災害援助等協力費	1,000,000	765,600	279,389	260,215	225,996
(目) 災害援助訓練等諸費	100,000	94,737	94,737	0	0
(目) 災害援助協力費	650,000	602,763	154,014	233,015	215,734
(目) 難民救済協力費	250,000	68,100	30,638	27,200	10,262

【支払内訳・実績】

(目) 災害援助訓練等諸費

94,737

(1) 運営委員会経費

2,372

(a) ①救急医療チーム関係

・運営委員会

- 昭和62年 7月16日 (JMTDRに関する打ち合せ)
- 8月20日 (JMTDRの今後の方向についての打ち合せ)
- 10月19日 (派遣中の労災の扱い及び各委員会の位置付け)
- 11月24日 (JMTDRの見直し再整備)

・研修小委員会

- 昭和62年 8月13日 (第7回研修会準備委員会)
- 9月22日 (第7回研修会事前打ち合せ)
- 63年 1月 6日 (第7回研修会反省及び今後の方針)

②救急チーム関係

・リーダー研修

- 昭和62年 11月18日 (リーダー研修準備委員会)
- 12月 1日 (")
- 12月 9日 (")
- 12月16日 (")
- 12月16日 (")
- 63年 1月12日 (")
- 1月26日 (リーダー研修会講師打ち合せ)
- 2月26日 (リーダー研修反省会)

・ヘリコプター分解組立訓練

- 2月19日 (ヘリコプター分解組立訓練打ち合せ)
- 2月23日 (")
- 3月11日 (ヘリコプター分解組立訓練打ち合せ)

(b) 災害関係報告会

昭和62年	5月 8日	(モルディブ高潮災害)
	9月 7日	(バングラディッシュ洪水災害先派遣)
	9月 8日	(" " 第2次隊打ち合せ)
	9月21日	(" " " 帰国報告会)
	10月 1日	(ヴェネズエラ洪水災害派遣打ち合せ)
	10月19日	(" " 報告会)
	10月20日	(" " ")
63年	1月27日	(ヴェトナム台風災害報告会)
	2月22日	(ブラジル洪水・ヴァヌアツサイクロン災害報告会)

(c) 実施体制会議

昭和62年	12月14日	第1回開催
63年	1月14日	第2回開催
	3月 3日	第3回開催

(2) マニュアル作成費

31,176

(a) 備蓄関連調査

8,976

・メキシコ	(1名) 高木 繁	62. 4.15 ~ 4.22	1,153
・メキシコ	(1名) 新納 宏	62. 7.26 ~ 7.31	585
・シンガポール	(1名) 橋浦 廣志	62. 7.27 ~ 7.31	503
・シンガポール	(1名) 高木 繁	62.11. 9 ~ 11.12	478
・スイス・イタリア・ フランス・シンガポール	(3名) 佐藤 三郎	63. 1.16 ~ 1.27	2,632
	高木 繁	" ~ "	
	朝日 紀樹	63. 1.17 ~ 1.27	
・スイス	(1名) 隅田 栄亮	63. 3. 5 ~ 3.12	1,245
・ペルー・ブラジル	(1名) 香川 剛広	63. 2.29 ~ 3.13	1,163
・メキシコ・ペルー・ボリビア	(1名) 高木 繁	63. 3.16 ~ 3.31	1,217

(b) その他調査

8,994

・ブラジル (国際救急災害医学会)	(3名) 太田 宗夫	62. 5.10 ~ 5.20	3,579
	石田 詔治	" ~ "	
	高木 繁	" ~ "	
・ヴァヌアツ (ヴァヌアツ援助政策)	(1名) 平川 繁行	62. 5.30 ~ 6. 1	707
・アメリカ (米国救出救助協会)	(5名) 勘木 清	62. 5. 9 ~ 5.19	4,042
	内藤 好一	" ~ "	
	野田 正三	" ~ "	
	窪田 博之	" ~ "	
	新納 宏	" ~ "	

・ブラジル (在外館経協連絡会議)	(1名) 藤江 達之	63. 3. 6 ~ 3.13	666
-------------------	------------	-----------------	-----

(c) 報告書関係

12,836

・JMTDRパンフレット	(英、仏、西語 各1,000部)
・ハンドブック	(2,000部)
・JDRニュース	(2,000部)
・ステッカー	(140,000枚)
・シール	(30,000枚)
・61年度実績報告書	(100部)

(d) その他

370

(3) 訓練諸費			61,189
・第7回JMTDR研修会 (47名)		62.10.23 ~10.25	3,947
於 YMCA野辺山センター			
・救助チーム用特殊機械(ファイバースコープ、音響探知機)習熟訓練			
警察庁・消防庁(11名)		62.11.25	
海上保安庁(12名)		62.12.3	
・第1回救助チーム語学研修(17名)		62.12.14 ~12.23	1,094
・リーダー研修会(第1回)(36名)		63.1.28 ~1.30	3,195
於 東京国際研修センター、東京消防庁学校			
・第2回救助チーム語学研修(25名)		63.2.19 ~2.29	4,003
・ヘリコプター分解組立訓練(36名)		63.3.14 ~3.16	2,835
(第1回)於 成田、東京ヘリポート			
・国際緊急援助隊業務委託 国際協力サービス・センター			44,470
・その他			1,645

(目) 災害援助協力費

154,014

(1) 専門家派遣経費

29,076

・モルディブ高潮災害	(5名) 大倉 理	62.4.24 ~5.2	3,699
	今川 八束	〃 ~ 〃	
	宇多 高明	〃 ~ 〃	
	佐合 純造	〃 ~ 〃	
	遠藤 博	〃 ~ 〃	
・中国山火事災害	(1名) 渡辺 正夫	62.9.12 ~9.18	274
・バングラデシュ	(5名) 谷 莊吉	62.8.27 ~9.5	3,436
	新納 広	〃 ~ 〃	
	石川 満雄	62.8.29 ~9.5	
	橋本 一生	〃 ~ 〃	
	村越 俊雄	62.9.12 ~9.18	
・ヴェネズエラ洪水復旧調査	(7名) 岸田 弘	62.10.6 ~10.18	7,024
	米各 恒春	〃 ~ 〃	
	西田 一孝	〃 ~ 〃	
	佐々木庸介	〃 ~ 〃	
	森永 正彬	〃 ~ 〃	
	加藤 進	62.10.6 ~10.18	
	大部 一秋	〃 ~ 〃	
・グアタマツ・サイクロン災害	(1名) 西川 昭司	63.2.13 ~2.20	1,785
・ヴェトナム台風災害	(1名) 高杉 重光	63.2.14 ~2.21	580
・ブラジル洪水災害	(1名) 青山 豪	63.2.29 ~3.13	1,283
・エチオピア旱魃災害	(1名) 秋山 稔	63.4.6 ~4.17	5,412
	三好 知明	〃 ~ 〃	
	加藤 圭一	〃 ~ 〃	
・その他			5,583

(2) 資機材購送費		124,938
(a) 災害援助物資		113,572
・モルディブ高潮災害	(医薬品、医療機器)	5,740
・中国山火事災害	(医薬品、テント)	14,490
・バングラデシュ洪水災害	(医薬品、浄水器、発電機)	10,150
・ヴェネズエラ洪水災害		31
・ヴェトナム台風災害	(医薬品)	15,025
・ヴァヌアツ、サイクロン災害	(発電機、医薬品)	14,222
・ブラジル洪水災害	(医薬品、医療資材)	38,207
・ビルマ火事災害	(医薬品、医療資材、毛布)	15,707
(b) 備蓄関連		11,366
成田備蓄品		11,366
(目) 難民救済協力費		30,638
(1) 機材供与費(輸送費含む)		30,638
・エチオピア旱魃災害(医薬品)		30,638

(4) 国際救急医療チーム(JMTDR)第7回研修会

国際救急医療（JMTDR）第7回研修会参加者名簿

	氏名	職種	所属先	グループ	部屋	備考
1	秋山 稔	医師	国立病院医療センター 国際医療協力部	B	401	
2	天野 博	//	天理よろづ病院 海外医療科	D	401	
3	伊勢 泰	//	国立病院医療センター 国際医療協力部	A	401	
4	井原 勝彦	//	国立呉病院 心臓血管外科 医長	B	401	
5	植田 勝利	//	国立立川病院 第二外科 医長	A	402	
6	大友 康裕	//	日本医科大学救命救急センター	A	402	
7	大川 信隆	//	東大病院 救急部（非常勤）	A	402	
8	草野 敏	//	国立長崎中央病院 外科医局	D	402	
9	楠本 一	//	国立病院医療センター 国際医療協力部 派遣協力課	D	403	
10	古川 誠	//	徳之島徳洲会病院	C	403	
11	佐々木 二忠	//	国立療養所南横浜病院 呼吸器外科 医長	A	403	
12	島 功	//	国立療養所札幌南病院 第二神経内科 医長	D	403	
13	竹山 博	//	国立岡山病院 第二呼吸器科医長	B	404	
14	帖佐 徹	//	国立医療センター 国際医療協力部	B	404	
15	筒井 巧	//	国立岡山病院 脳神経外科	D	404	
16	藤原 久直	//	国立長崎中央病院 耳鼻咽喉科 医長	C	404	
17	古田 樹	//	国立病院医療センター 国際医療協力部	C	405	
18	本間 仗	//	国立療養所札幌南病院 呼吸器外科 医長	C	405	
19	増本 義	//	国立長崎中央病院 小児科	A	405	
20	松浦 博志	//	千葉徳洲会病院 内科	D	405	
21	三浦 好知	//	国立病院医療センター 国際医療協力部	D	307	
22	村田 三紗子	//	東京都衛生局公衆衛生部	B	302	
23	山内 慶	//	—	C	307	
24	吉永 和正	//	兵庫医科大学救急部 助手	C	307	
25	渡辺 純一	//	東京大学医科学研究所 寄生虫部	B	307	
26	方波 見柳	看護婦	筑波メディカルセンター病院	D	302	
27	川上 幸代	//	西条中央病院	C	302	
28	川田 欣二	看護士	国立療養所西新潟病院 看護課	C	308	
29	木本 美恵子	看護婦	三木医院 看護婦	A	302	
30	佐藤 裕美	//	大島町国民健康保険南部診療所	A	303	
31	柴田 さちよ	//	名古屋第二赤十字病院	B	303	
32	大工 洋子	//	国立病院医療センター 看護部	D	303	
33	馬場 節香	//	国立病院医療センター 看護部	B	303	
34	日高 すすみ	//	国立呉病院 看護部 看護婦長	C	304	
35	伏見 正江	//	山梨県立高等看護学校	C	304	
36	渡辺 洋子	//	慈生会病院	B	304	
37	浅井 利幸	調整員	国立病院医療センター 臨床検査科	A	308	
38	江口 節生	//	—	C	308	
39	江藤 誠一	//	—	C	308	
40	川畑 享子	//	岩手医科大学教養部 生物学研究室	D	304	
41	桐原 陽一	//	国立立川病院 薬剤科 常勤職員	A	309	
42	佐々木 敬次	//	楠東郷アンド・アソシエーツ 代表取締役	B	309	
43	竹森 英治	//	バン・プロジェクト	D	309	
44	富永 茂清	//	—	D	309	
45	比嘉 順忠	//	—	B	310	
46	松岡 一	//	国立長崎中央病院 薬剤科	B	310	
47	山田 元	//	—	A	310	

	氏名	職種	所 属 先	グループ	部 屋	備 考
48	本 多	委員長	本多記念東北循環器科病院 院長	A	205	
49	今 川	委員	東京都墨東病院 感染症科 部長	B	204	
50	奥 村	//	高知学園短期大学 衛生技術科 教授	D	203	
51	高 橋	//	日赤医療センター 外科 副部長	C	202	
52	高 谷	//	富士通川崎病院 健康管理部 部長代理	C	204	
53	東 山	//	日本赤十字社 外事部 外事第一課 課長	D	203	
54	浦 本	//	日本医科大学救命救急センター 助教授	A	201	
55	横 山	講 師	東京消防庁救急管理課 主任	A	210	
56	横 村	//	日本赤十字社 東京都支部 普及課 課長		210	
57	竹 井	技 師	国土庁 防災局 防災企画課		209	
58	金 子	//	消防庁 救急救助課		209	
59	立 石	//	警察庁 警備局 警備課		209	
60	片 岡	//	海上保安庁 特殊救難隊 隊長		209	
61	佐 藤	事務局	外務省 経済協力局 技術協力課		305	
62	木 村	//	(社)青年海外協力協会 局長		305	
63	出 沢	//	(社)青年海外協力協会		300	
64	小 畑	//	国際協力事業団 医療協力部 部長		306	
65	小 池	//	// // 特別業務室 室長		206	
66	高 木	//	// // // 室長代理		207	
67	大 倉	//	// // //		207	
68	小 池	//	// // //		207	
69	新 建	//	// // //		207	
70	大 部	//	// // //		208	
71	大 村	//	// // 医療協力部		300	
72	大 西	//	// //		300	
73	西 新	//	国際協力サービス・センター 業務第二部長		206	
74	新 杉	//	国際協力サービス・センター		208	
75	松 下	//	//		300	
76	西 山	//	//		208	
77	西 関	//	//		208	
78	関 滝	//	//		301	
79	野 坂	//	//		301	
80	上 丹	//	//		301	

第7回研修会プログラム

日	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所
23日 (金)	14:30～ 15:30 16:30～18:00 18:00～19:00 19:00～19:05 19:05～21:30	J R小淵沢駅よりバス出発 Y M C A野辺山高原センター到着 オリエンテーション, 委員講師紹介 国際緊急援助体制, J M T D Rの概要説明 (外務省, J I C A) 夕 食 (グループ別) 開会の辞 (本多J M T D R運営委員長) < ケース・スタディ > - 導入及びシミュレーション方式の説明 ビデオテープ - 設問1 (出発まで)	研 修 会 場 食 堂 研 修 会 場 "
24日 (土)	8:00～ 9:00 9:00～10:15 10:30～12:00 12:00～13:00 13:00～15:00 15:00～15:10 15:10～16:10 16:10～16:50 17:00～17:20 17:20～18:20 18:20～20:00 20:00～22:00	朝 食 - 設問2 (現場まで) コーヒブレイク - 設問3 (活動計画) 昼 食 - 設問4 (診療にあたって) コーヒブレイク - 設問5 (文化的側面) - 設問6 (撤退にあたって) 休 憩 夕 食 < 特別講義 > J M T D R参加者の体験談 憩 親 会	食 堂 研 修 会 場 " " 食 堂 研 修 会 場 " " 食 堂 研 修 会 場 食 堂
25日 (日)	7:00～ 8:00 8:00～ 8:10 8:10～ 8:20 8:20～ 8:30 8:30～11:00 11:00～11:30 11:30～12:15 12:15～13:30 14:00～ ～15:00	朝 食 J M T D Rの機材説明 野外訓練の方法説明 野外への移動 野外訓練 休憩 レポート作成 昼食及び修了式 修了証書授与 講評 閉会の辞 (本多J M T D R運営委員長) 野辺山高原センター出発 J R小淵沢駅到着	食 堂 研 修 会 場 " 野外訓練場 食 堂

CASE STUDY

メキシコ 地震

JMTDR 研修会
シミュレーション用資料

Case Study メキシコ地震

昭和60年9月19日午前7時18分(日本時間同午後8時18分)メキシコ太平洋岸の沖、約65kmの海底を震源地とするマグニチュード8.1の大地震が発生した。米国コロラド州UPIからの至急電によるとメキシコ市と外部との通信は全く途絶し、メキシコ市自体も強い地震に見舞われ電気、電話回線が切れたほかビル崩壊など相当な被害が出ている模様であるとの情報が同夜11時20分外務省及び各新聞社に入ってきた。

9月20日の朝刊は各紙とも速報として載せたが、被害の程度はメキシコ市との電話、テレックス等通信手段が途だえているため犠牲者は100人以上と米国からの報道を伝えている。

ところが、日本時間20日午前6時15分中米経由の特別回線が確保され在メキシコ大使館より得た情報によると被害ははるかに大きく、メキシコ市を中心に中央3州にわたっていることが判明した。メキシコ市ではアパートやホテルが倒壊したうえ、水道管の破裂、都市ガスの噴出で市民はパニック状態になっていると伝えてきた。同時に大使からの報告によるとデラマドリ大統領は直ちに非常事態宣言を出し、軍隊を動員して倒壊ビルの下敷きとなっている住民の救出作業に当たっている。また現地時間、同日夕までに250人の死亡が確認されたとメキシコ政府の公式発表があったという。

外務省は、在メキシコ国日本大使に人道的立場から J M T D R 派遣の用意があることを直ちにメキシコ政府に伝えるよう指示した。それに対し、午前 6 時 5 0 分至急電にて「メキシコ政府は日本からの暖かい援助の手を一刻も早く差し伸べてくれることを期待し、J M T D R の派遣をお願いする」との返電が入った。

9 月 2 0 日午前 8 時、J I C A は直ちに出発準備に入った。同日、午後 8 時 3 0 分の日本航空ロスアンゼルス行きで、同地よりエアロメキシカーナに乗り継いで行くのが最も遠い飛行機便であることが分かった。またチームは医師 3 名・看護婦 6 名・調整員 3 名のフル編成と決まった。

旅程は次のとおり。

9 月 2 0 日

2 0 : 3 0 成田発 J L 0 6 4 (B 7 4 7)

同 日

1 4 : 1 5 ロスアンゼルス着

1 9 : 0 0 ロスアンゼルス発 M X 7 4 0 (B 7 2 7 S)

2 3 : 2 5 メキシコシティ着

登録者であるあなたは午前 8 : 3 0 に出勤要請の電話を受け、あなた自身は参加する意志を固めた。出発前、午後 4 : 0 0 に J I C A に集合との連絡があった。

メキシコで大地震

M7.8 犠牲100人以上



【ロサンゼルス十九日】メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

地震は、メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ南部のクワイラタラ州で十九日午後十時十八分、規模四・七から五・一の地震が起き、少なくともメキシコ人の死者は百人以上、死者は百人以上と推定されている。

メキシコ概要

1. 地理，気候

(1) 地理

メキシコ(日本語通称「墨国」)は、国土の総面積が1,972,564平方キロメートルありわが国の5倍強の大きさで、ラテン・アメリカではブラジル、アルゼンティンについて3番目の大きさである。

北はアメリカ合衆国のテキサス、アリゾナ、ニューメキシコ及びカリフォルニア州に、南はグアテマラおよび英領ホンデュラスと国境を接している。また、東部はメキシコ湾とカリブ海に、西南は太平洋に面しており、非常に長い海岸線を有している。

海岸地帯と南東部のユカタン半島を除く国土の大部分が海拔1,000メートル以上の高地によって占められており、2,000メートルを越す地域も多く、いわゆる山丘、高原地帯でなりたっている。

メキシコ市は四方を山並みに囲まれた平均海拔2,240メートルの高原盆地にあるため、個人差はあるものの、頭痛、睡眠不足等軽い高原病の症状を訴えるケースが見られる。

なお、メキシコがアメリカとざっと2,600kmにも及ぶ国境を接することに加え、1840年代後半にテキサス地方をアメリカに併合され、かつ、米墨戦争で現在のアメリカの領土であるニューメキシコ、アリゾナ、コロラド、ユタ、ネバダ、カリフォルニアの地域を含む広大な領土を失ったことは、米墨関係に常に微妙な影響を与え続けており、将来とも諸々の社会、政治、経済的問題を惹起して行くであろう。

(2) 気 候

メキシコのほぼ中央部を北回帰線が通っており、大ざっぱに、北部は乾燥地帯、南は貿易風地帯と云えるものの、緯度はもちろんのこと高度、山脈、気圧、降雨などの影響を強く受け特異な気候を呈し、海拔1,000メートル以下の熱帯、亜熱帯と1,000メートル以上の温帯に分けられる。

メキシコ市を中心とする中央高原は温帯に属しているものの、日本のような四季の変化にはとぼしく、主として6月～9月の雨季と10月～5月の乾季に分けるのが適当で、10月～1月はいわゆる冬にあたる。雨季にはほとんど毎日午後驟雨に見舞われる。月間平均最高気温が24℃～26℃、同最低が6℃～7℃で年間を通じ温暖な気候と云えるが、一方気温の日較差は甚だ大きい上、晴天、曇天による気温の上昇、下降も著しいため通年薄手のセーターは手離せない。

なお、カリフォルニア半島および北部の諸域は乾燥地帯で夏季には40℃を越すこともめずらしくなく、メキシコ湾岸の低地は一般に高温多湿である。

2. 人口，人種，宗教

(1) 人 口

メキシコでは10年毎に人口センサスがおこなわれているが、1980年6月4日に実施されたそれによれば（本稿作成時では中間発表数字）総人口は67,405,700人で、うち16,919,600人即ち25%強が連邦区およびメキシコ州のいわゆるメキシコ大都市圏に集中していることが判明した。

メキシコ市以外の大都市では、中部高原の文教都市グアダラハラ市および北部の工業都市モンテレイ市が著名である。

従前人口増加率は世界最高水準の3.6%といわれていたが、現政権の主要施策の一つが人口抑制で1982年末までにこれを2.5%に減少せんとマスコミを動員し懸命にキャンペーンしている。

(2) 人 種

人種構成(このことを云々すること自体あまり意味はないのだが)は資料によりさまざまに定かではないが、メスティーソと呼ばれる白人と原住民の混血が全人口の60%を占め、原住民が25%、残る15%が白人その他と云われている。黒人は殆ど見かけない。

(3) 宗 教

信教の自由は憲法により保障されているが、ほかのラテン・アメリカ諸国と同様に国民の大部分がカトリック信者で、市中はもちろん全国いたるところで教会が目につく。

宗教的行事が国民一般に割合浸透しており、国祭日との関連も大きい。

もつともほかのカトリック国に比べれば、国政レベルの諸分野における教会の影響力はかなり弱いようだ。

3. 医療事情

a) 医療機関数及び病床数

TYPE

T : Total Establishments

A : Government Establishments

B : Private Non-Profit Establishments

C : Private Profit Establishments

Category	Type	1974 (pop. 58,120,000)	
		Establishments	Beds
General Hospital	T	745	33,702
General Medicine			8,054
General Surgery			6,811
Obstetrics and Gynaecology			6,164
Paediatrics			4,697
Infectious Diseases			84
Convalescence			270
Other and Unspecified			7,822
Local or Rural Hospital	A	250	14,020
Medical Centre	A	414	5,570
Specialized Hospital			
Maternity Hospital	T	100	2,350
Paediatric Hospital	T	21	2,469
	A	9	1,950
	B	6	353
	C	6	166
Cancer Hospital	T	2	85
	A	1	61
	C	1	24
Cardiology Hospital	A	1	153
Gastro-Enterology Hospital	A	1	160
Rehabilitation Centre	C	2	80
Traumatology Hospital	T	3	186
	A	2	180
	C	1	6
Tuberculosis Hospital	A	2	723
Mental Hospital	T	27	6,182
	A	14	4,368
	B	1	168
	C	12	1,646
Neuro-Psychiatry Hospital	A	1	124
Chronic Diseases Hospital	A	1	396
Leprosy Hospital	A	1	422
Other	T	4	741
	A	3	621
	B	1	120
Total	T	1,575	67,363

(World Health Statistics Annual)

b) 医療従事者数及び人口に対する割合

i) 医療従事者

H : Personnel in Hospitals and Other Health Establishments

+ : Entry Used for Calculation of Population/Nursing and Midwifery Personnel Ratios

Medical and Allied Health Personnel	1974 (pop. 58,120,000)
Physician	46,473
Dentist	1,879H
Dental Technician	38H
Pharmacist	112H
Midwife	277H +
Nurse-Midwife	255H +
Assistant Midwife	102H +
Nurse	17,394H +
Assistant Nurse	23,604H +
Nursing Auxiliary	9,481H
Physiotherapist	349H
Dietitians	65H
Nutritionist	414H
Medical Laboratory Technician	1,643H
Medical Laboratory Assistant	1,617H
X-Ray Technician and Assistant	1,144H
Sanitary Engineer	7H
Sanitarian	92H
Health Inspector	462H
Chemist	1,554H
Psychologist	205H
Biologist	40H
Medical Statistician	28H
Health Educator	18H
Anesthesia Technician	135H
Cardiology Technician	14H
Encephalographer	35H
Medical Social Worker	1,509H
Other Technician in the Field of Health	235H

(World Health Statistics Annual)

ii) 医師・看護婦の人口に対する割合

H : Personnel in Hospitals and Other Health Establishments

Year	Physician		Midwife and Nurse	
	Rate p.10000pop.	Pop.per Physician	Rate p.10000pop.	Pop.per Midwife and Nurse
1950	4.45			
1960	5.61			
1970	6.92			
1974	8.00	1,251	7.16H	1,396

(World Health Statistics Annual)

c) 平均寿命・乳児死亡率

i) 平均寿命 男69歳 女76歳 (現代用語の基礎知識 1986)

ii) 乳児死亡率 (出生千対)

Late Fetal Deaths: Fetal Deaths after at least 28 Weeks' Gestation.
Fetal Deaths of Unknown Gestational Age are Included.

Infant Deaths: Deaths under 1 Year

Neonatal Deaths: Deaths under 4 Weeks

Post-Neonatal Deaths: Deaths from 4 Weeks to under 1 Year

Perinatal Deaths: Late Fetal Deaths and Deaths under 1 Week

Year	Late Fetal Mortality		Infant Mortality		Neonatal Mortality		Post-Neonatal Mortality		Perinatal Mortality	
	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate
1976	40,216	18.6	122,309	57.0	46,672	21.6	76,301	35.4	70,106	32.5
1977			105,309	46.2						
1978	34,694	14.8	93,257	39.7	34,822	14.8	58,435	24.9	55,804	23.8
1979	34,708	14.2	94,972	38.8	39,656	16.2	55,316	22.6	61,650	25.2
1980			98,500	40.3						

(World Health Statistics Annual)

d) 10大疾患・10大死因

i) 伝染病の10大疾患と罹患者数

1978		
1	Amoebiasis	148,551
2	Influenza	134,045
3	Gonococcal Infections:Incidence	20,487
4	Malaria:Incidence	19,080
5	Other Salmonella Infections	18,103
6	Chickenpox	17,523
7	Strep, Sore Throat & Scarlet Fever	14,770
8	Mumps	14,283
9	TB, All Forms:Incidence	10,158
10	TB, Respiratory System:Incidence	9,644
1979		
1	Ill-Defined Intestinal Infections	594,920
2	Amoebiasis	209,265
3	Influenza	134,809
4	Gonococcal Infections:Incidence	33,287
5	Mumps	22,224
6	Malaria:Incidence	20,983
7	Other Salmonella Infections	18,674
8	Measles	10,691
9	TB, All Forms:Incidence	9,989
10	Syphilis and Sequelae:Incidence	9,591

(World Health Statistics Annual)

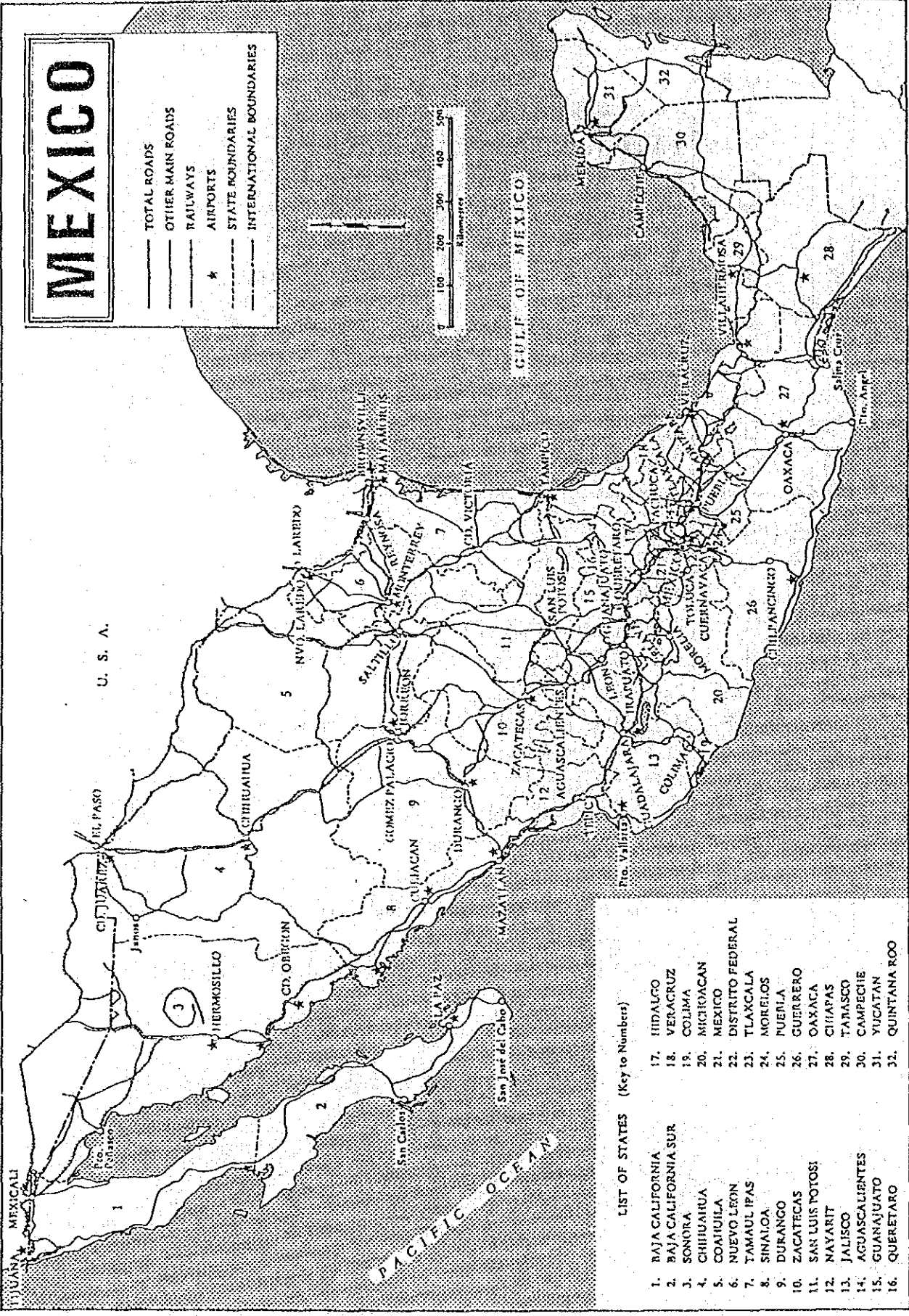
ii) ICD・A分類による死因順位及び死亡数

A list No.		1975	
1	I	Infective and Parasitic Diseases(A1-A44)	76,762
2	VIII	Diseases of the Respiratory System(A89-A96)	72,483
3	VII	Diseases of the Circulatory System(A80-A88)	64,954
4	5	Enteritis and Other Diarrhoeal	50,840
5	EXVII	Accidents, Poisonings & Violence(AE138-AE150) (External Cause)	49,932
6	XVI	Symptoms and Ill-Defined Conditions(A136 & A137)	49,271
7	91&92	Pneumonia	49,200
8	137	Symptoms and Other Ill-Defined Conditions	34,024
9	84	Other Forms of Heart Disease	30,558
10	IX	Diseases of the Digestive System(A97-A104)	27,404
A list No.		1979	
1	I	Infective and Parasitic Diseases(A1-A44)	82,938
2	VIII	Diseases of the Respiratory System(A89-A96)	82,235
3	VII	Diseases of the Circulatory System(A80-A88)	67,873
4	91&92	Pneumonia	55,409
5	EXVII	Accidents, Poisonings & Violence(AE138-AE150) (External Cause)	53,326
6	5	Enteritis and Other Diarrhoeal Diseases	51,103
7	XVI	Symptoms and Ill-Defined Conditions(A136 & A137)	44,846
8	84	Other Forms of Heart Disease	31,116
9	137	Symptoms and Other Ill-Defined Conditions	29,180
10	IX	Diseases of the Digestive System(A97-A104)	26,656

(World Health Statistics Annual)

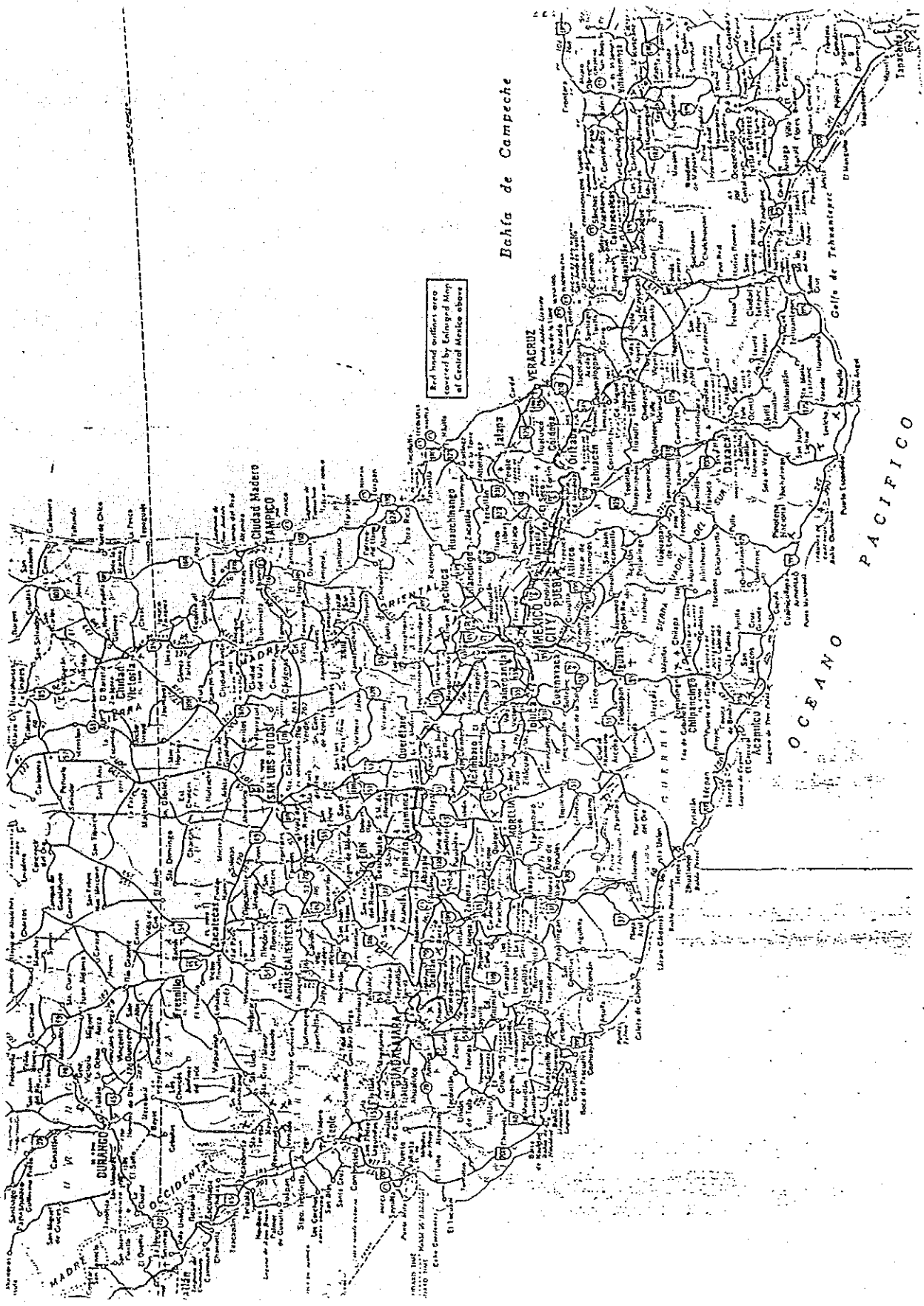
MEXICO

- TOTAL ROADS
- OTHER MAIN ROADS
- RAILWAYS
- AIRPORTS
- STATE BOUNDARIES
- INTERNATIONAL BOUNDARIES



LIST OF STATES (Key to Numbers)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. BAJA CALIFORNIA | 17. HIDALGO |
| 2. BAJA CALIFORNIA SUR | 18. VERACRUZ |
| 3. SONORA | 19. COLIMA |
| 4. CHIHUAHUA | 20. MICHOACAN |
| 5. COAHUILA | 21. MEXICO |
| 6. NUEVO LEON | 22. DISTRITO FEDERAL |
| 7. TAMAULIPAS | 23. TLAXCALA |
| 8. SINALOA | 24. MORELOS |
| 9. DURANGO | 25. PUEBLA |
| 10. ZACATECAS | 26. GUERRERO |
| 11. SAN LUIS POTOSI | 27. OAXACA |
| 12. NAVARRIT | 28. CHIAPAS |
| 13. JALISCO | 29. TABASCO |
| 14. AGUASCALIENTES | 30. CAMPECHE |
| 15. GUANAJUATO | 31. YUCATAN |
| 16. QUERETARO | 32. QUINTANA ROO |



Baha de Campeche

Red hand symbols were covered by enlarged Map of Central Mexico above

OCEANO PACIFICO

設問 1. 出発まで

- (1) JICAにかけつけるまでに、あなたは何をしなければならないかを考えて下さい。
- (2) 個人装備としてあなたは何を準備しますか。
- (3) JICA集合時、オリエンテーションにおいてあなたは何を期待し、また何を確認したいですか。

設問 2. 現場到着まで

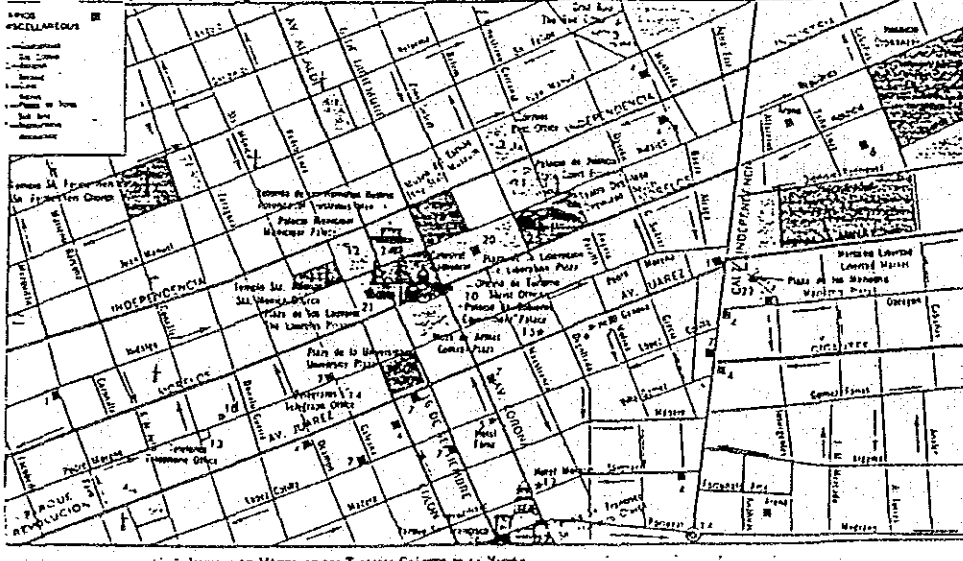
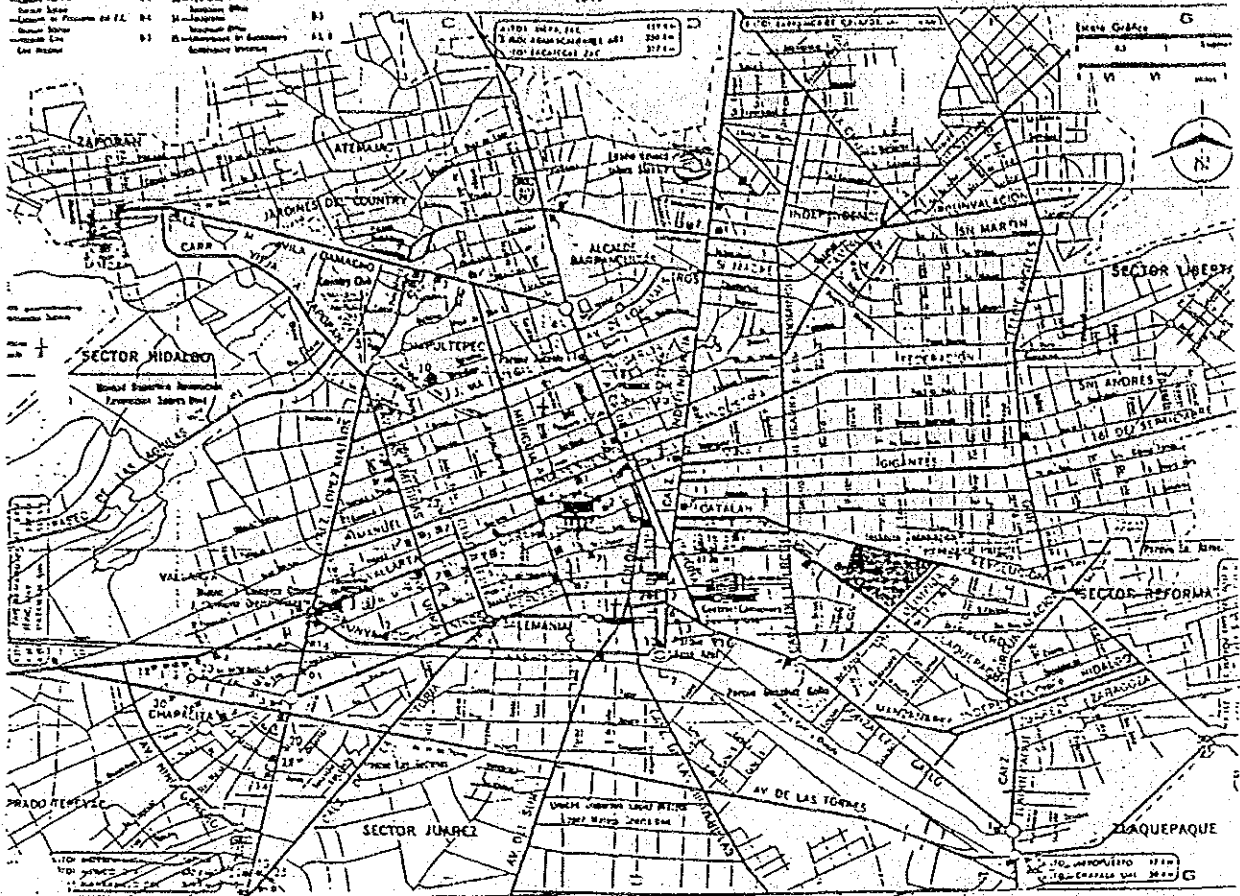
- (1) ロスアンジェルスで乗り継ごうとしたら、エアロメキシカーナのカウンターはパニック状態で最初の乗継便にはどうしても12人中6人しか乗れないことが分った。
あなたがリーダーだったらどう対処しますか。
- (2) メキシコ市に全員が到着した時点で現地対策本部から、日本チームはメキシコ市より西北西に約580 Km離れたグアダラハラ(Guadalajara)に行ってくれと要請された。
しかし、グアダラハラに定期便で到着したとき、医薬品のダンボール箱が3個なくなっているのに気が付いた。チームとしてどう対処しますか。

GUADALAJARA, JAL.

POBLACION 1979 2 453 435 ALTITUDE 1967 m. S.M.M. TEMPERATURA MEDIA ANUAL 19
 POPULATION 1979 2 453 435 ALTITUDE A.S.L. 5140 FT. AVERAGE ANNUAL TEMP. 66°F.

EDIFICIOS PUBLICOS

01	Escuela Primaria
02	Escuela Secundaria
03	Escuela Superior
04	Escuela Normal
05	Escuela de Artes y Oficios
06	Escuela de Música
07	Escuela de Danza
08	Escuela de Teatro
09	Escuela de Idiomas
10	Escuela de Ciencias Exactas
11	Escuela de Ciencias Sociales
12	Escuela de Ciencias Políticas
13	Escuela de Ciencias Económicas
14	Escuela de Ciencias Jurídicas
15	Escuela de Ciencias Médicas
16	Escuela de Ciencias Veterinarias
17	Escuela de Ciencias Agrícolas
18	Escuela de Ciencias Forestales
19	Escuela de Ciencias Ambientales
20	Escuela de Ciencias de la Salud
21	Escuela de Ciencias de la Nutrición
22	Escuela de Ciencias de la Alimentación
23	Escuela de Ciencias de la Industria
24	Escuela de Ciencias de la Construcción
25	Escuela de Ciencias de la Ingeniería
26	Escuela de Ciencias de la Arquitectura
27	Escuela de Ciencias de la Artes Plásticas
28	Escuela de Ciencias de la Artes Escénicas
29	Escuela de Ciencias de la Música
30	Escuela de Ciencias de la Danza
31	Escuela de Ciencias de la Literatura
32	Escuela de Ciencias de la Historia
33	Escuela de Ciencias de la Geografía
34	Escuela de Ciencias de la Sociología
35	Escuela de Ciencias de la Psicología
36	Escuela de Ciencias de la Filosofía
37	Escuela de Ciencias de la Teología
38	Escuela de Ciencias de la Religión
39	Escuela de Ciencias de la Ética
40	Escuela de Ciencias de la Lógica
41	Escuela de Ciencias de la Matemática
42	Escuela de Ciencias de la Física
43	Escuela de Ciencias de la Química
44	Escuela de Ciencias de la Biología
45	Escuela de Ciencias de la Geología
46	Escuela de Ciencias de la Meteorología
47	Escuela de Ciencias de la Climatología
48	Escuela de Ciencias de la Oceanografía
49	Escuela de Ciencias de la Cosmología
50	Escuela de Ciencias de la Astronomía



EDIFICIOS PUBLICOS

01	Escuela Primaria
02	Escuela Secundaria
03	Escuela Superior
04	Escuela Normal
05	Escuela de Artes y Oficios
06	Escuela de Música
07	Escuela de Danza
08	Escuela de Teatro
09	Escuela de Idiomas
10	Escuela de Ciencias Exactas
11	Escuela de Ciencias Sociales
12	Escuela de Ciencias Políticas
13	Escuela de Ciencias Económicas
14	Escuela de Ciencias Jurídicas
15	Escuela de Ciencias Médicas
16	Escuela de Ciencias Veterinarias
17	Escuela de Ciencias Agrícolas
18	Escuela de Ciencias Forestales
19	Escuela de Ciencias Ambientales
20	Escuela de Ciencias de la Salud
21	Escuela de Ciencias de la Nutrición
22	Escuela de Ciencias de la Alimentación
23	Escuela de Ciencias de la Industria
24	Escuela de Ciencias de la Construcción
25	Escuela de Ciencias de la Ingeniería
26	Escuela de Ciencias de la Arquitectura
27	Escuela de Ciencias de la Artes Plásticas
28	Escuela de Ciencias de la Artes Escénicas
29	Escuela de Ciencias de la Música
30	Escuela de Ciencias de la Danza
31	Escuela de Ciencias de la Literatura
32	Escuela de Ciencias de la Historia
33	Escuela de Ciencias de la Geografía
34	Escuela de Ciencias de la Sociología
35	Escuela de Ciencias de la Psicología
36	Escuela de Ciencias de la Filosofía
37	Escuela de Ciencias de la Teología
38	Escuela de Ciencias de la Religión
39	Escuela de Ciencias de la Ética
40	Escuela de Ciencias de la Lógica
41	Escuela de Ciencias de la Matemática
42	Escuela de Ciencias de la Física
43	Escuela de Ciencias de la Química
44	Escuela de Ciencias de la Biología
45	Escuela de Ciencias de la Geología
46	Escuela de Ciencias de la Meteorología
47	Escuela de Ciencias de la Climatología
48	Escuela de Ciencias de la Oceanografía
49	Escuela de Ciencias de la Cosmología
50	Escuela de Ciencias de la Astronomía

OTROS EDIFICIOS

01	Hotel
02	Restaurante
03	Café
04	Bar
05	Discoteca
06	Cine
07	Teatro
08	Conferencia
09	Exposición
10	Museo
11	Parque
12	Jardín
13	Plaza
14	Alameda
15	Paseo
16	Camino
17	Calle
18	Carretera
19	Autopista
20	Estación
21	Terminal
22	Almacén
23	Deposito
24	Oficina
25	Centro
26	Edificio
27	Palacio
28	Templo
29	Iglesia
30	Monasterio
31	Convento
32	Ermita
33	Capilla
34	Parroquia
35	Diócesis
36	Arzobispado
37	Obispo
38	Cardenal
39	Papa
40	San
41	Santa
42	Virgen
43	Ángel
44	Santo
45	Santa
46	Virgen
47	Ángel
48	Santo
49	Santa
50	Virgen

OTROS EDIFICIOS

01	Hotel
02	Restaurante
03	Café
04	Bar
05	Discoteca
06	Cine
07	Teatro
08	Conferencia
09	Exposición
10	Museo
11	Parque
12	Jardín
13	Plaza
14	Alameda
15	Paseo
16	Camino
17	Calle
18	Carretera
19	Autopista
20	Estación
21	Terminal
22	Almacén
23	Deposito
24	Oficina
25	Centro
26	Edificio
27	Palacio
28	Templo
29	Iglesia
30	Monasterio
31	Convento
32	Ermita
33	Capilla
34	Parroquia
35	Diócesis
36	Arzobispado
37	Obispo
38	Cardenal
39	Papa
40	San
41	Santa
42	Virgen
43	Ángel
44	Santo
45	Santa
46	Virgen
47	Ángel
48	Santo
49	Santa
50	Virgen

グアダラハラ GUADALAJARA

ハリスコ州 Estado de Jalisco の州都
メキシコシティの西、約580キロ

中央高原北部の商・工・農業の中心地。メキシコシティに次ぐ、国内第2の活気あふれる大都市でありながら、スペイン統治時代の面影を随所にとどめ、優雅で清潔な“古都”の趣を併せもちます。市の創建は1542年。

グアダラハラとその周辺部は、メキシコを代表する音楽——マリァッチ、民族舞踊——ハラベ・タバティオ（タバティオはハリスコ州民の愛称）、酒——テキーラなどの本場となっています。また、近郊に良質のオパール鉱山が発見されたため、ケラタロと並ぶメキシコ・オパールの集散地としても重要です。

気候

グアダラハラは“常春の都”と呼ばれ、冬の夜間に若干冷えこむほかは、1年を通じてさわやかで温暖な気候に恵まれています。雨季は6～9月で、夕方から夜にかけて、通常短時間の雨が降ります。

▶ 月別平均気温 (℃) ◀

気温	(℃)											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高	23.5	25.4	27.9	30.1	31.2	28.7	26.0	26.0	25.	25.5	25.2	23.6
最低	6.7	7.9	9.2	11.5	14.0	15.9	15.3	15.1	15.1	12.4	9.1	7.8

人口：約2,500,000 高度：1,567m

グアダラハラへの交通

〈空路〉

メキシコシティから：Aeromexico または Mexicana で55分。アカプルコから：Aeromexico で1時間。国際線では、バンクーバーから：CP Air で5時間45分。ロサンゼルスから：Aeromexico または Mexicana で2時間40分。

麗空港 市の南18キロ。市内のホテルまでタクシーで約50ペソ。

〈バス〉

メキシコシティから：Tres Estrellas de Oro 社の1等バスで10～14時間、82.50ペソ。

〈鉄道〉

メキシコシティから：メキシコ国鉄の列車で12～14時間。

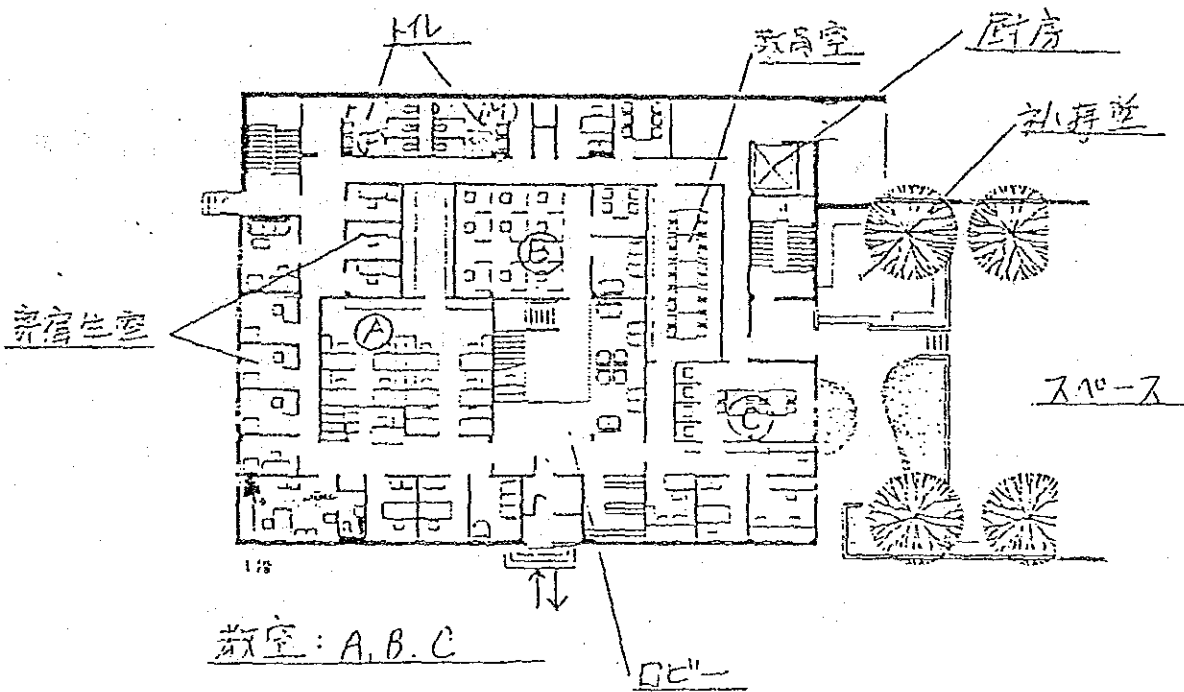
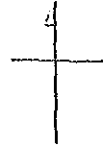
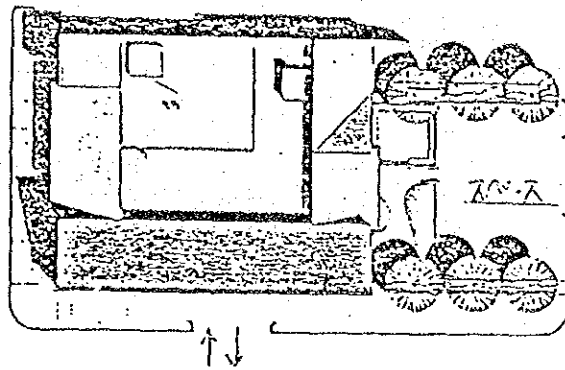
設問 3. 活動計画

グアダラハラ市の対策本部より状況の説明（別紙）があり、日本チームにはグアダラハラ市内南西部の Sector JUAREZ（フアレス地区）が割り当てられ、地区のほぼ中央にある被害のなかった小学校（平面図別紙）で治療にあたってくれと要請があった。次の項目について、具体的な活動計画をたてて下さい。

（1）病棟設営

（2）医療計画

日本チームに与えられた小学校の負担図



< 対策本部よりの状況説明 >

1. 被災詳細ははっきりしていないが、判明している限りの情報は次の通りである。

1) 死者、行方不明	約 5 0 0 名
2) 重傷者	約 2 , 0 0 0 名
3) 軽傷者	約 1 0 , 0 0 0 名
4) 倒壊家屋	約 1 , 0 0 0 戸

2. メキシコよりも数名ずつの医師、看護婦が配置されることになっている。

3. 近辺の病院は地震により壊滅状態で患者後送は不可能に近い状態である。

設問 4. 診療にあたって

重症用入院ベッド30床が出来上がり医療活動が開始された。

(1) ベッドが満床のところに、救助作業中にビルが倒壊しガスが噴出して爆発したため、対策本部より30分後に重傷患者が30人送られてくるとの連絡が入った。どうしますか。

(2) 被災者の1人が産気づいた。どうしますか。

設問 5 . 文化的側面

- (1) 低たんぱく血症で浮腫のおばあさんがいます。ミルクを飲ませようとしたが宗教上の理由で拒否している。どうしますか。
- (2) J M T D R の手渡している薬は飲むなど患者たちに言いふらしている人がいるとのうわさを耳にした。
現に数人の患者が服薬を拒否している。どう対処すべきでしょうか。

設問 6. 撤退にあたって

10日程たち、状況は落ち着いてきた。リーダーは2週間で撤退との基本方針で日本や大使館と連絡を取っている。

(1) 隊員のひとりがまだ状態の落ち着かない患者がいるので自分一人でも残りたいと言いだした。

チームとしてどう対処したらよいか。

(2) 撤退にあたって考えなければならないことは何ですか。